

ESGレポート2025

株式会社常磐植物化学研究所



●編集方針

株式会社常磐植物化学研究所のESGレポートは、株主・お取引先様・地域の皆さまをはじめとする幅広いステークホルダーの皆さまに、弊社のサステナビリティ推進方針や考え方・目標・体制・具体的な取組みを深く理解していただくことを目的としています。私たちは「植物に感謝し、活かされる会社になる」という経営理念のもと、植物の持つ力を最大限に活かし、社会に貢献することを使命としています。植物が示す静かなる強さと持続する変化から学び、私たち自身も絶え間ない進化を続けます。

前年度の取組みを中心に「ESGレポート2025」でご報告します。

●報告対象期間

2024年4月1日～2025年3月31日

●発行情報

発行日：2025年6月23日（月）

●第三者機関

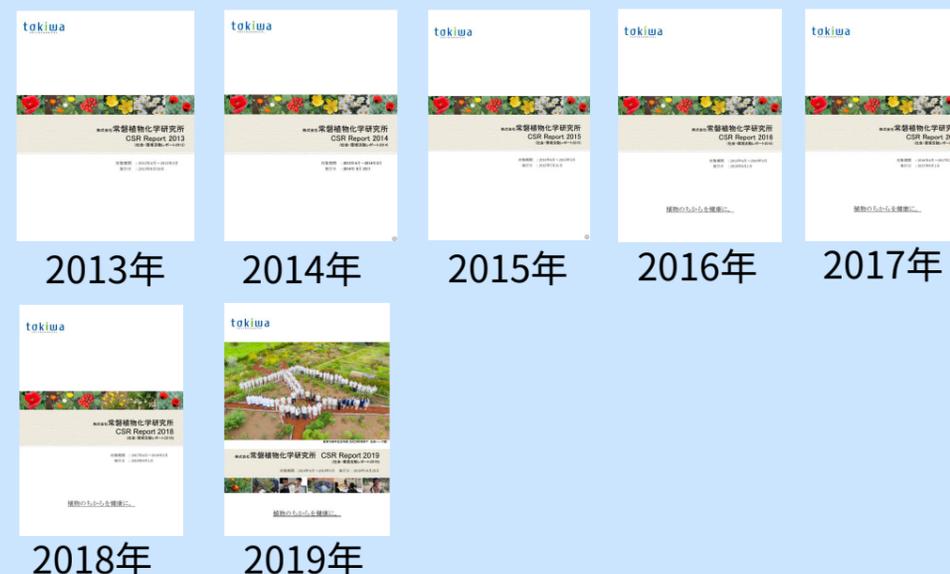
第三者機関	認証カテゴリー	認証内容
株式会社日本格付研究所（JCR）	環境、社会	ポジティブインパクト評価
一般財団法人日本能率協会	環境	温室効果ガス排出量算定検証
一般財団法人持続性推進機構	環境	エコアクション21認証
東京中小企業投資育成株式会社	ガバナンス	株主
税理士法人千葉中央会計事務所	ガバナンス	社外監査役

●ESGレポートの変遷

2009年～ 社会・環境活動レポート



2013年～ CSRレポート



2020年～ サステナビリティレポート



2023年～ ESGレポート



会社概要

会社名 : 株式会社常磐植物化学研究所

設立 : 1949年10月8日

資本金 : 8,000万円

従業員数 : 150名

代表取締役 : 立崎 仁

所在地 本社 : 千葉県佐倉市木野子158番地

支社 : 東京都中央区日本橋本町4-4-16 日本橋内山ビル6F

事業内容



原料製造

医薬品原薬
健康食品原料
化粧品原料
食品添加物



受託製造

原料
中間体



研究用試薬・受託分析

高純度化合物
受託精製
メタボローム解析

設立趣意

植物化学の成果の医薬的応用により、社会公衆の福祉増進に寄与することを
念願として設立するものであって、従って本社の事業は単に営利のみを
目的とせず、一半の力を植物化学の発達にも投ぜんとするものである。

若し之に依って祖国再建の礎石の一半を荷うこと、
なれば、本社設立の主旨は達成されたに近い。

行動規範

私たちは、『経営理念』と、以下に定める『行動規範』を遵守します。
そして、地域、社会の未来を牽引できる倫理観を持ち続け、社会的責任を果たします。

1. 人間として正しい行動をします。
2. 人の命と健康、人権、文化、宗教を尊重します。
3. 学び、成長の機会を生涯持ち続けます。
4. 事業継続力(BCP)、ESG経営力を高めます。
5. 法令や規則を厳格に遵守します。
6. 個人・機密情報を守り、正確に情報発信します。
7. 反社会的勢力との関係を排除します。

社長、役員、部門長は、本規範を率先垂範し、社員の間人向上に努めます。

経営理念

私たちは、

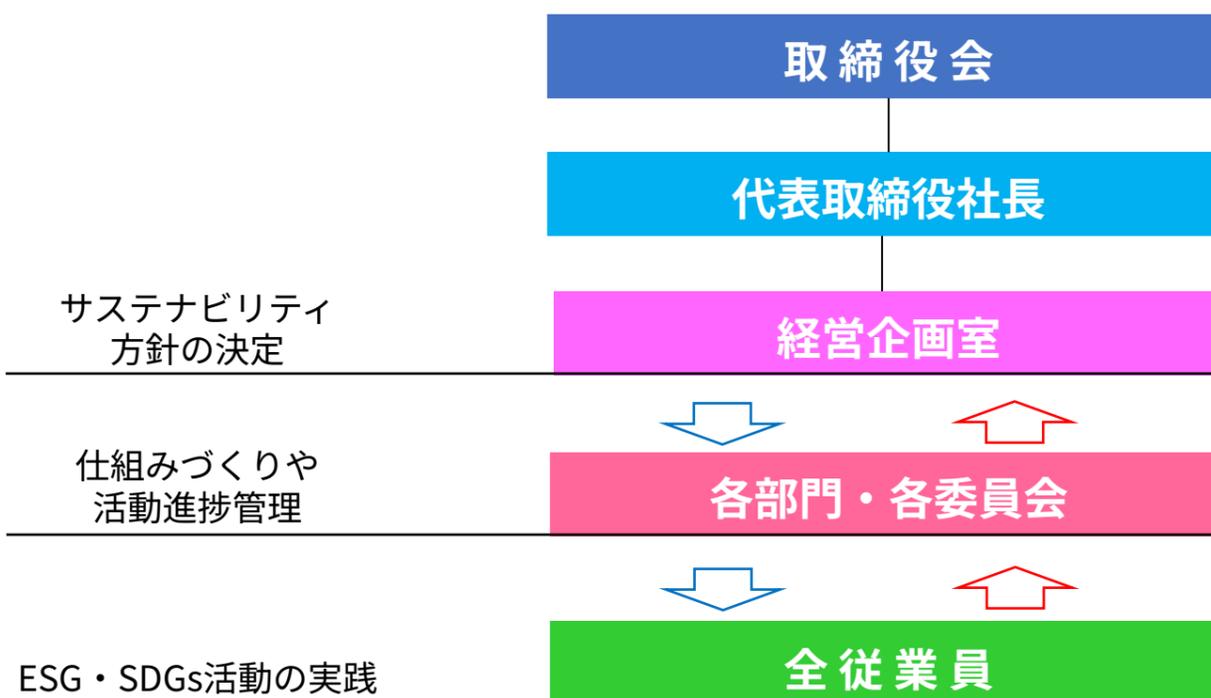
植物のちからを引き出し、新たな価値を創造します。

最高の技術で、最高の製品を製造します。

社員の幸福と社会の発展に貢献します。

そして、植物に感謝し、生かされる会社になります。

●サステナビリティ推進体制



●サステナビリティ方針

1. 私たちは、限りある経営資源を大事にします。
2. 私たちは、社会、地球、植物から生かされる人・組織・会社であるために、何をすべきかを常に考え、行動します。

植物のちからを引き出し、新たな価値を創造し、人々の健康的な暮らしと社会の発展に貢献します。植物資源の調達から、植物化学研究、製品化まで、地球環境、社会への影響を重視し、持続可能な開発を目指します。

また、薬用植物の栽培や次世代への教育を通じて、植物への感謝を示し、人と植物の明るい未来づくりに貢献します。

トップメッセージ

「植物に学ぶESG経営」

常磐植物化学研究所のESGレポート2025をご覧ください、誠にありがとうございます。昨年10月、常磐植物化学研究所は創業75周年を迎えることができました。お客様・お取引先様・株主をはじめ、地域の皆様、何より社員とご家族に、心から感謝申し上げます。

私たちは、「生かされる」を経営理念に掲げています。植物は、環境や様々な生物に生かされ、私たち人類よりも千～二千倍も長く、そして広く、この地球上に生きてきました。生命のサステナビリティ戦略において、「限りある資源を大事にする」ことは、植物、また会社経営においても、極めて重要なことであると考えています。

環境（E）15年を超える環境・社会活動に基づき環境大臣賞を受賞し、社会（S）3年連続で健康経営優良法人ブライト500に認定され、ガバナンス（G）「ポジティブ・インパクト評価」実施と日本格付研究所（JCR）の第三者意見取得による長期資金調達など、「ヒト・モノ・資金」を全てサステナブルに変える取組の背景に、「植物の生存戦略」があります。

植物は他者を生かし、自らも生かされる独自の生態的地位（ニッチ）を確立し、その分野で一番となることで生き残ってきました。私たちもまた、厳しい事業環境を生き抜くために、「世界一の植物化学企業」の地位を確立し、創業100周年を迎えると共に、人と植物の明るい未来に貢献して参ります。



代表取締役社長

立崎 仁

博士（薬科学）

公益社団法人東京生薬協会 常務理事

日本医薬品原薬工業会 理事

日本漢方生薬製剤協会 理事

一般社団法人日本健康食品規格協会（JIHFS）理事

一般社団法人日本ブルーベリー協会 理事

一般社団法人千葉県経営者協会 人づくり委員会委員長

佐倉商工会議所 常議員

一般社団法人成田法人会 理事

公益財団法人塚本美術館 理事

公益財団法人岩城留学生奨学会 評議員

目次

p. 7 価値創造MAP

p. 8 サステナビリティ戦略

サステナビリティ課題の特定プロセス、課題の分析、課題の特定、リスクと機会、財務への影響評価

p.14 ガバナンス

ガバナンス体制、リスク管理、リスク対応のプロセス

p.15 目標と実績

p.15 環境 (Environment)

p.34 社会 (Social)

p.43 ガバナンス (Governance)

p.47 ステークホルダーエンゲージメント

p.48 受賞関係



価値創造MAP

世界一の植物化学企業

サステナブルな



ヒト



モノ



資金



- 健康経営
- 自己研鑽
- 経営理念研修
- 働き方改革 など

⇒「世界一の植物化学企業」の実現を支える組織と人財、tokiwaファンダムの形成

- 廃棄物のリサイクル化
- カーボンニュートラル化
- 5S活動
- 植物エキスの研究開発 など

⇒製品力の深化と進化、共創による信頼拡大、世界市場への飛躍、社会課題に応える企業としての責任

- ESGファイナンス
- 透明性のある経営（ガバナンス）
- ポジティブインパクト評価 など

⇒サステナブルな設備投資・人財投資

植物の生存戦略

自己変革

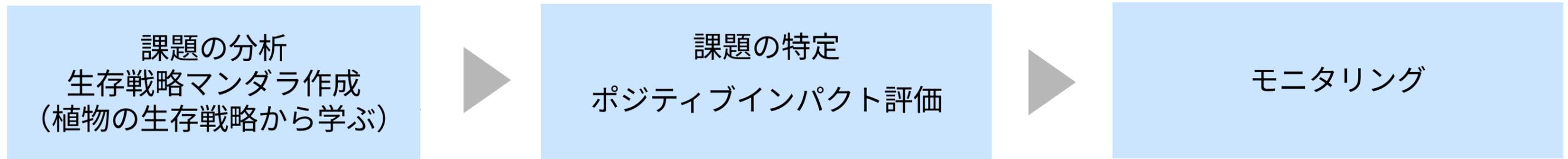
利他性

経営理念

私たちは、
植物のちからを引き出し、新たな価値を創造します。
最高の技術で、最高の製品を製造します。
社員の幸福と、社会の発展に貢献します。
そして、植物に感謝し、生かされる会社になります。

サステナビリティ戦略

●サステナビリティ課題の特定プロセス



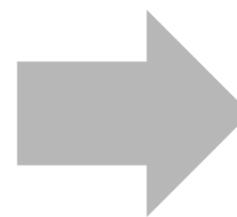
●課題の分析：マンダラ作成（植物の生存戦略から学ぶ）

「植物に感謝し、生かされる会社」を経営理念に掲げる弊社は、動かずして繁栄する植物の生存戦略を自社の生存戦略に応用するべく、研修を通して生存戦略マンダラを作成しました。

植物の生存戦略は、
「自己変革」
「利他性」

香り (におい) を提供する	昆虫と共創する	天敵からの回避場所を提供する	生態系を維持する	気候を調節する	遺伝的多様性を調節する	酸素を提供する	栄養素を提供する	水分を提供する
蜜を提供する	与える (昆虫)	産卵場所を提供する	水分を調節する	調節する (環境)	土壌を調節する	成長に適した環境を維持する	与える (微生物)	微生物を守る
忌避物質を生産する	生活場所を提供する	昆虫生態系を維持する	災害を予防する	大気を調節する	環境を維持する (有害物質を除去する)	多様性を維持する	共生で栄養素を交換する	無機物を共有する
生物多様性の循環を作る	栄養素、食料の循環を作る	無機物の循環を作る	与える (昆虫)	調節する (環境)	与える (微生物)	気候へ適応する	低温へ適応する	突然変異率を上げる
太陽エネルギーの循環を作る	循環を作る (太陽・宇宙)	窒素、リンの循環を作る	循環を作る (太陽・宇宙)	植物の生存戦略	適応する (地域・気候)	乾燥へ適応する	適応する (地域・気候)	高温へ適応する
水の循環を作る	CO2と酸素の循環を作る	熱の循環を作る	与える (人・動物)	自らを変える (進化・変化)	繋がる (土)	土壌へ適応する	光合成を最適化する	種子に頼らない繁殖をする
薬として健康に寄与する	豊かな生活の要素を提供する	精神的な健康を提供する	突然変異する	他の生物を利用して繁殖する	情報伝達により連携する	土になる	土壌を改良する	温度を調整する
燃料・衣類を提供する	与える (人・動物)	住居材料を提供する	地上へ進出した	自らを変える (進化・変化)	光合成という仕組みを獲得した	土壌流出を防止する	繋がる (土)	栄養素を共有する
水分を提供する	栄養素を提供する	文化のモチーフになる	環境へ適合する	時間をかけて進化する	生体防御機構を獲得する	水分を共有する	生存の土台として利用する	他の植物・微生物と繋がる

植物の生存戦略のマンダラを自社に置き換え、「生かされる会社」になるための行動方針を定めました。



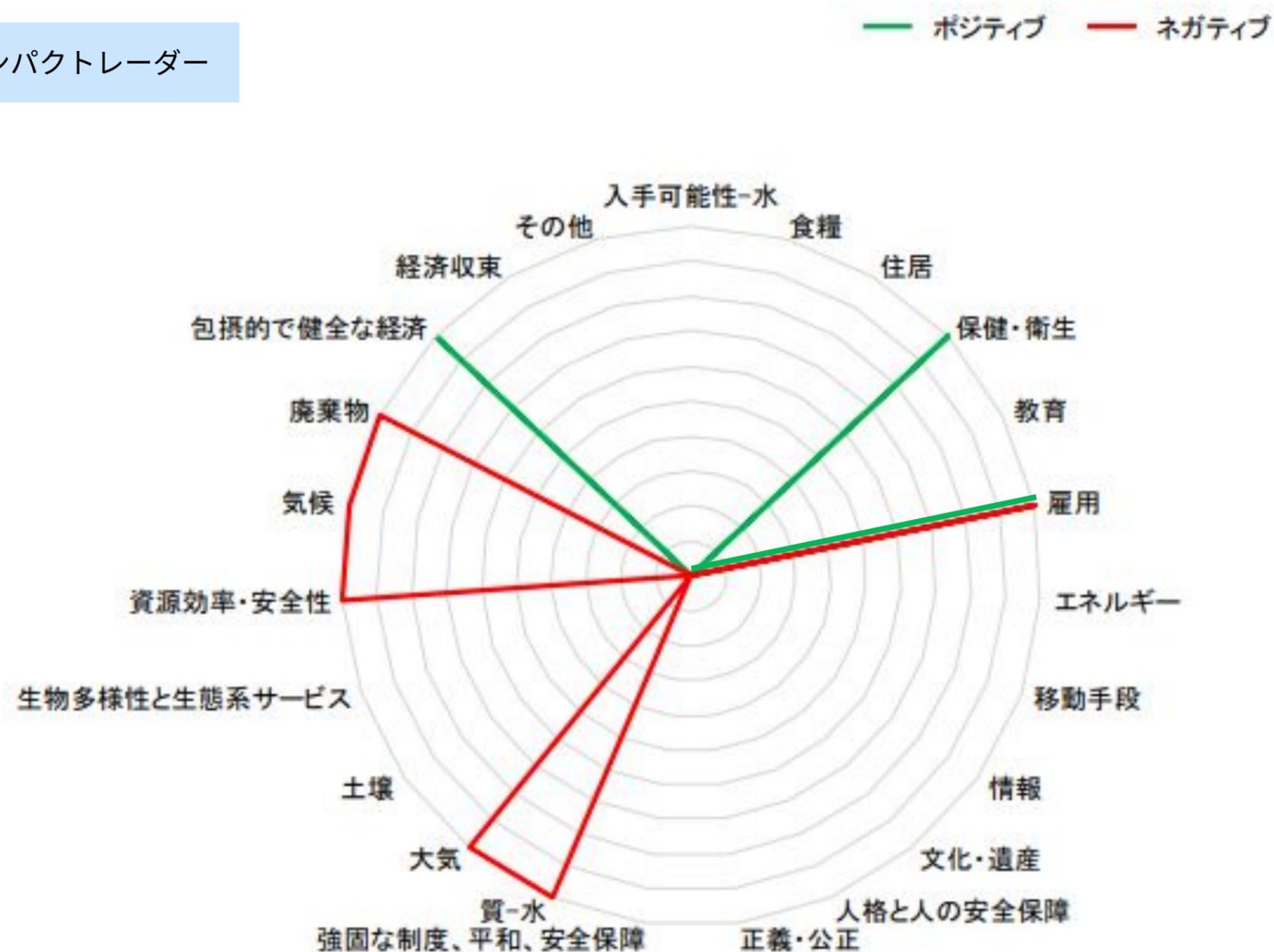
常磐植物化学研究所の
生存戦略マンダラ

tokiwaファンになってもらう	Win-Winな関係を築く	品質管理体制を提供する	協力企業や同業他社と協働する	意見を出し合って決める	ダイバーシティ人材を迎える	能動的に情報発信する	利益を還元する	社員1人1人が利益を生み出す
敬意と感謝を伝える	与える (お取引先様)	技術を開示する	透明性のある組織を運営する	調節する (事業・規模)	規模に適した人材を獲得する	前向きな姿勢を見せる	与える (銀行・オーナー)	社会に存在価値を示す
対等な関係を構築する	誇りを共有する	経営の手法となる	有事に備える	幅広い市場に浸透する	計画的な設備投資を行う	今後への期待感を示す	盤石な財務基盤を構築する	透明性のある情報を開示する
新たな認証を取得する	利益を還元する	資源を再利用する	与える (お取引先様)	調節する (事業・規模)	与える (銀行・オーナー)	SDGSの目標7, 12を達成する	潜在的なニーズから商品を作り出す	多様化組織を作る
エネルギーを効率的に利用する	適応する (業界・社会)	3R製品を作る	適応する (業界・社会)	常盤の「生かされる」行動と経営	適応する (業界・社会)	目先の利益を追わないESG経営を推進する	適応する (業界・社会)	成長市場に注力する
雇用を創出する	生態系を保護する	サプライチェーンの中心としての自覚を持つ	与える (お客様)	自らを変える (進化・変化 (社員))	繋がる (社会・宇宙)	市場の声に耳を傾け柔軟な対応をする	苦境でも活路を見出す	グローバル市場に展開する
tokiwaのウェルビーイングに憧れよう！	そうだ！tokiwaに聞こう！	満足・ハピネス・感動・夢を与える	変革マインドを持つ	多様な価値観を理解する	コミュニケーションを促進する	常盤薬祖神社で祈る	学会発表やアカデミアに参加する	ウェルビーイング施設を通じてつながる
品質と価格のバランスの取れた製品を提供する	与える (お客様)	安全性データを拡充する	新たな試みに挑戦する	自らを変える (進化・変化 (社員))	人生を楽しむ目的を持って生きる	被災地域、戦争地域を支援する	繋がる (社会・宇宙)	挨拶と礼儀正しい行動を取る
環境配慮の選択肢となる	必須成分を提供する	独自エビデンスを提供する	経験を取りに行く	時間をかけて成長する	本を読み人間性を磨く	清掃と地域行事に参加する	教育活動を推進する	tokiwaで得られる仲間と交流する

●課題の特定：ポジティブインパクト評価

UNEP FIが提供する国際的な分析ツールでは、弊社が属する業種のインパクトとして「保健・衛生」（ポジティブ）、「雇用」（ポジティブ、ネガティブ）、「水（質）」（ネガティブ）、「大気」（ネガティブ）、「資源効率・安全性」（ネガティブ）、「気候」（ネガティブ）、「廃棄物」（ネガティブ）、「包摂的で健全な経済」（ポジティブ）が確認されました。

インパクトレーダー



●課題の特定：ポジティブインパクト評価

弊社の事業・サービス特性などをもとに個別分析を実施し、「保健・衛生」（ネガティブ）、「教育」（ポジティブ）、「資源効率・安全性」（ポジティブ）、「気候」（ポジティブ）、「廃棄物」（ポジティブ）、「経済収束」（ポジティブ）をインパクトに追加しました。「大気」（ネガティブ）については、社内で利用する社用車のEV車への更新、工場内のフォークリフトを電動式フォークリフトに切り替えを行っており、有害物質発生抑制に努めています。また、「資源効率・安全性」、「廃棄物」（ネガティブ）についてはリサイクル等、適切な処理をしています。

特に影響が大きいインパクト

追加したインパクト

	ポジティブ	ネガティブ
水(入手可能性)	○	○
食糧	○	○
住居	○	○
保健・衛生	●	●
教育	●	○
雇用	●	●
エネルギー	○	○
移動手段	○	○
情報	○	○
文化・伝統	○	○
人格と人の安全保障	○	○
正義・公正	○	○
強固な制度、平和、安全保障	○	○
水(質)	○	●
大気	○	●
土壌	○	○
生物多様性と生態系サービス	○	○
資源効率・安全性	●	●
気候	●	●
廃棄物	●	●
包摂的で健全な経済	○	○
経済収束	●	○
その他	○	○

特に影響が大きいインパクト

保健・衛生 健康に配慮したオリジナル素材の開発・提供

追加したポジティブインパクト

教育 教育活動への貢献、次世代人財の育成

資源効率・安全性、
廃棄物 植物資源廃棄物のリサイクルで廃棄物の削減

気候 カーボンニュートラル推進で環境負荷の軽減

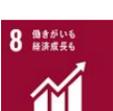
経済収束 地域社会への貢献活動

追加したネガティブインパクト

保健・衛生 従業員の業務過多による不調

●課題の特定：2030年度までのKPI・目標

ポジティブインパクト評価にて特定されたインパクトの増大・緩和に向けて、常磐植物化学研究所は以下の取り組み方針を定め、それぞれにKPIを設定しました。

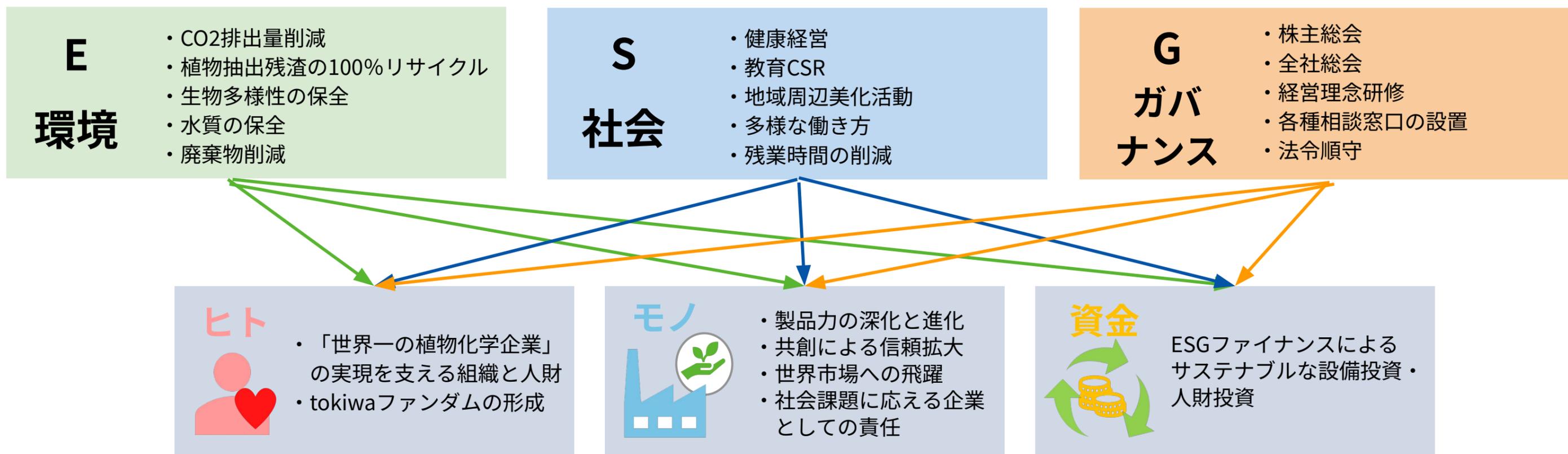
側面	インパクトカテゴリ	取り組み内容	2030年度までのKPI・目標	関連するSDGs目標
社会 経済	保健・衛生 経済収束	健康な社会づくり	2030年度までに健康に配慮したオリジナル商品2品目を開発・提供する	
社会	保健・衛生	従業員の健康増進	①2025年度にヘルシーテラスの利用割合を80%とする ②健康経営優良法人を維持する	
社会	教育	教育活動への貢献 次世代人材の育成	①佐倉サイエンスアカデミー（研究者向け）を年一回開講する ②佐倉アカデミアを含む小中高生向け講義を年3回実施する ③2025年度以降、年に1回 松尾仁賞（植物化学シンポジウム）表彰を実施する	
社会	雇用	働きやすい 職場環境づくり	2026年度までにユースエール認定を取得する。	
社会	雇用	働きやすい 職場環境づくり	2030年度までに ①時間外労働の削減 10時間未満/月 ②有給休暇取得率の向上 付与された有給休暇の日数の70%取得した人の割合70%以上。	
環境	水質	環境負荷の軽減	2030年度までに総地下水吸い上げ量を3,500m ³ （売上高1億円あたり）とする	
環境	資源効率・安全性 廃棄物	資源の再活用	2030年度までに廃棄物（抽出残渣）100%をリサイクル可能な資源として活用する	 
環境	気候	環境負荷の軽減	2030年度までにJクレジットを創出する	 
環境	気候	環境負荷の軽減	①2030年度までにカーボンニュートラルを達成する ②2030年度までに自家消費太陽光発電の発電容量を750kWとする ③使用電力の再生可能エネルギー比率100%を維持する。 ④2025年度までに「再エネ100宣言RE Action」に登録する	 
経済	経済収束	地域社会への貢献	本社・自社工場を災害時等のBCP拠点化し、2030年度までに拠点としての体制を整備する	 

●リスクと機会

ポジティブインパクト評価にて定めた取り組み方針に対し、取り組まないことによる「リスク」と、取り組むことによる「機会」を以下のように評価しました。

側面	インパクトカテゴリ	取り組み内容	リスク	機会
社会 経済	保健・衛生 経済収束	健康な社会づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・超高齢化に伴う介護の増加による労働力不足 ・生活習慣病（肥満、糖尿病など）の有病率上昇による労働力不足 ・ストレス社会における幸福度の低下 	<ul style="list-style-type: none"> ・自社製品配合の健康食品の普及で健康寿命延伸 ・心身のウェルビーイングへの貢献
社会	保健・衛生	従業員の健康増進	<ul style="list-style-type: none"> ・従業員のパフォーマンス低下 ・人手不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・従業員のパフォーマンス向上 ・従業員満足度の向上 ・人財確保の機会創出 ・人財の維持
社会	教育	教育活動への貢献 次世代人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな人財確保の機会喪失 ・地域コミュニティとのコミュニケーション不足によるトラブル 	<ul style="list-style-type: none"> ・人材確保の機会創出 ・地域コミュニティとの良好な関係構築 ・次世代人材の育成により植物化学の発展へ寄与
社会	雇用	働きやすい 職場環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・社員満足度の低下 ・人財の流出とそれによる人手不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢、性別関係なく多様な人財が働けるダイバーシティ経営の実現 ・プロパー人財の育成
環境	水質	環境負荷の軽減	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民とのトラブル ・行政指導 ・設備清掃コストの増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティとの良好な関係構築
環境	資源効率・安全性 廃棄物	資源の再活用	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物処理によるCO2排出量の増加 ・廃棄処理にかかるコスト高騰 	<ul style="list-style-type: none"> ・植物資源廃棄物から生まれる新たな価値、ビジネス機会の創出 ・廃棄処理のコスト低減
環境	気候	環境負荷の軽減	<ul style="list-style-type: none"> ・気候変動による植物原料の不作 ・気候変動による物流コストの高騰 	<ul style="list-style-type: none"> ・植物のサステナブルな調達

●財務への影響評価



ESGリスク	ESG機会
<p>①財務的損失：環境規制強化、気候変動による自然災害、人権問題による訴訟など、ESGに関連するリスクは直接的に財務的損失を招く可能性があります。</p> <p>②社会的信頼の低下：ESGに関する不祥事や問題は、顧客、従業員、株主からの信頼を失わせ、売上減少や株価の下落につながります。</p> <p>③当局からの制裁：環境規制違反や不正行為は、罰金や事業停止などの制裁を招き、企業活動を阻害する可能性があります。</p>	<p>①企業価値の向上：環境に配慮した製品やサービスを提供することで、顧客からの支持を高め、ブランドイメージを向上させることができます。</p> <p>②持続可能な成長：サステナビリティに関する取り組みは、長期的な競争力を高め、持続的な成長を促します。</p> <p>③新たなビジネスチャンス：環境負荷の低減、資源の有効活用、社会課題解決のための新サービスなど、ESGに関連する取り組みは、新たなビジネスチャンスを創出する可能性があります。</p>

ガバナンス

●ガバナンス体制

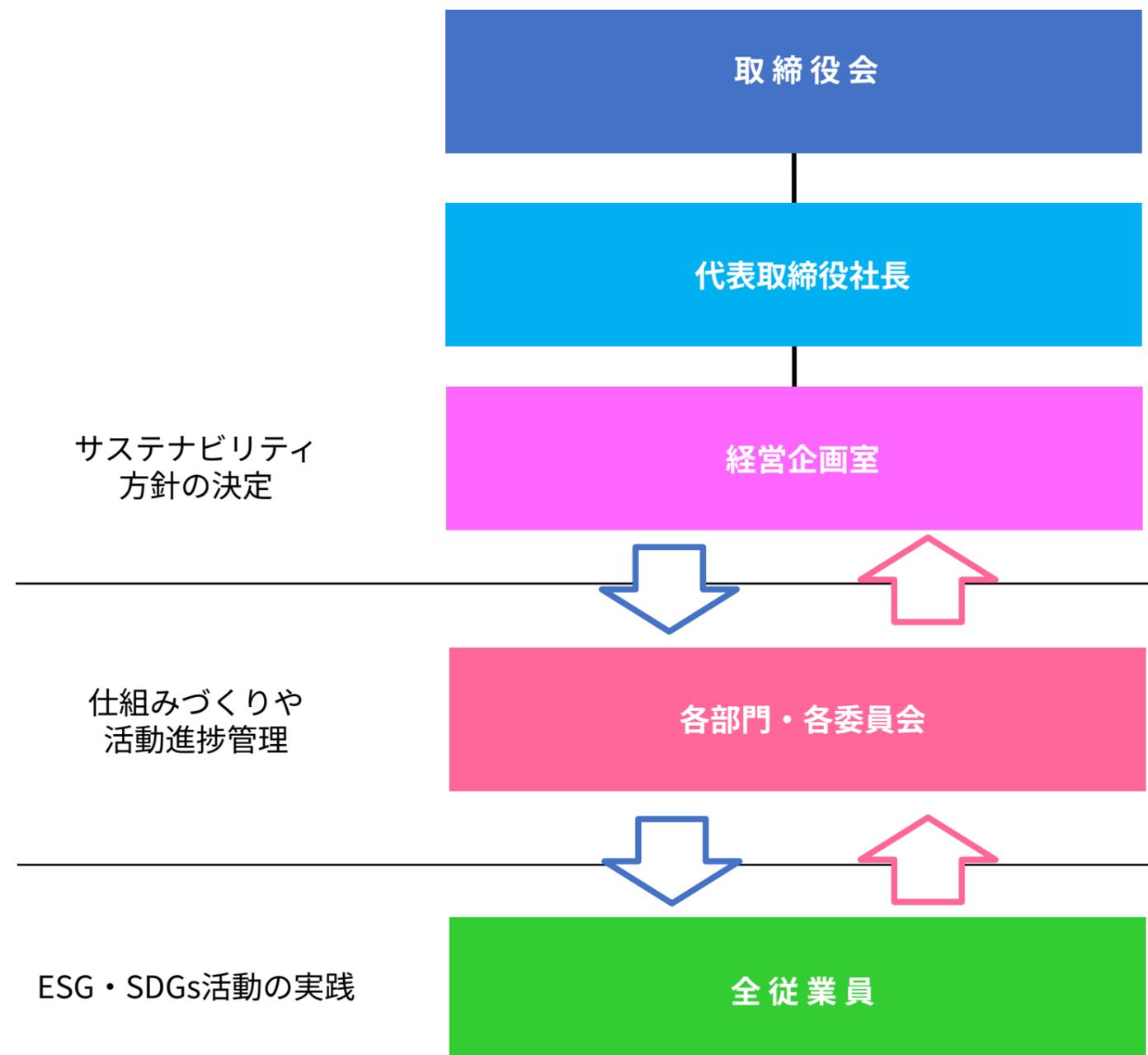
2020年4月より「サステナビリティ統括室」を設立、
2023年4月からは「経営企画室」と統合して代表取締役社長の傘下とし、
「経営企画室」が方針を決定し、各部門・各委員会が仕組みづくりや活動の
進捗管理を担う形で、全従業員がサステナビリティ活動を実施する体制を整
備しています。

●リスク管理

- サプライチェーンのモニタリング
- 製品の安全性評価
- HACCPおよび健康食品原材料GMPの基準に則った製造体制

●リスク対応のプロセス

- 安全衛生委員会
- 各種相談窓口の設置
- EA21委員会による評価やモニタリング



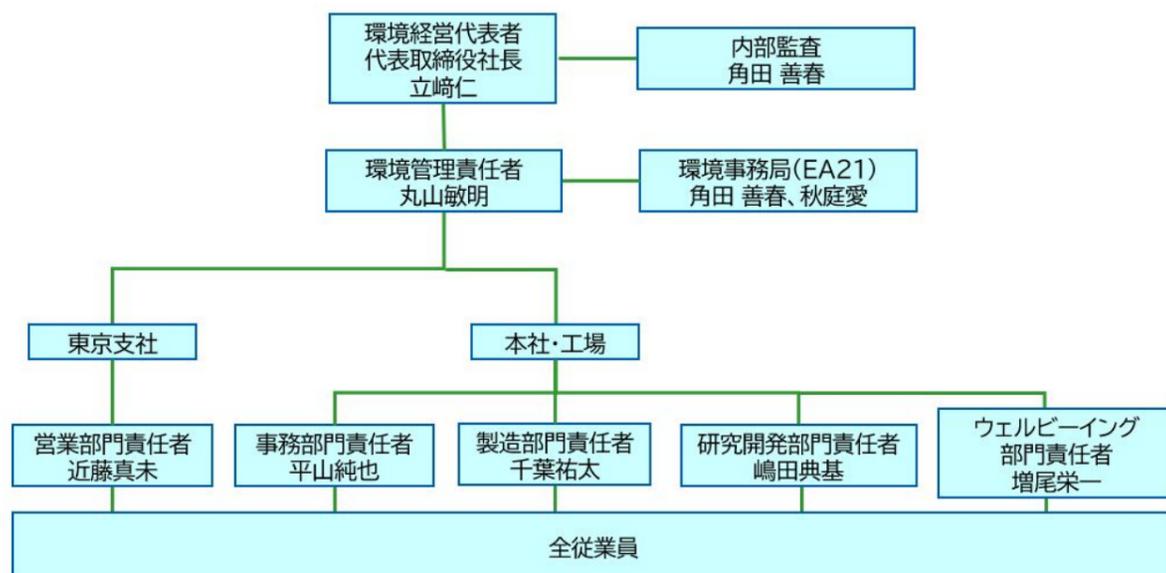
目標と実績

環境 – Environment 目標と実績

No.	側面	インパクトカテゴリ	取り組み内容	2030年度までのKPI・目標	2024年度実績	関連するSDGs目標
E1	環境	水質	環境負荷の軽減	2030年度までに総地下水吸い上げ量を3,500m ³ （売上高1億円当たり）とする	達成済み 継続	
E2	環境	資源効率・安全性 廃棄物	資源の再活用	2030年度までに廃棄物（抽出残渣）100%をリサイクル可能な資源として活用する	達成済み 継続 サブ目標：2026年度までに 全て有価物にする →受入先との連携強化 （利用価値の向上など）、 および新規受け入れ先の創出	 
E3	環境	気候	環境負荷の軽減	2030年度までにJクレジットを創出する	達成済み継続 2023年度Jクレジット 創出トン数 10.1 t-CO2	 
E4	環境	気候	環境負荷の軽減	①2030年度までにカーボンニュートラルを達成する ②2030年度までに自家消費太陽光発電の発電容量を750kWとする ③使用電力の再生可能エネルギー比率100%を維持する ④2025年度までに「再エネ100宣言 RE Action」に登録する	①プランニング完了 （2028年達成予定p.21参照） ②開発許可申請中（現状440kW） ③継続 ④2025年6月に登録完了	 

環境 – Environment エコアクション21(EA21)組織図及び実施体制

● 環境経営システム組織図



● 事業内容（認証・登録の範囲）

認証・登録番号 : 0003872
 認証・登録年月日 : 2009/07/13
 認証・登録事業者名 : 株式会社常磐植物化学研究所
 対象事業所名 : 本社・工場、東京支社、原料倉庫、
排水処理場、佐倉ハーブ園
 所在地 : 千葉県佐倉市木野子158番地
 事業活動内容 : 医薬品原薬、化粧品原料、
機能的食品原料及び食品添加物の製造・販売
ハーブ園の運営



● 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 : 丸山 敏明
 担当者 EA21事務局 : 角田 善春、秋庭 愛
 TEL 043-498-0007

● 役割・責任・権限

環境経営代表者	環境経営に関する統括責任 環境経営方針の策定及び見直しを全従業員に周知 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間を 用意 環境目標の設定を承認 環境管理責任者の任命 代表者による全体の評価と見直しを実施
環境管理責任者	環境経営システムを構築、実施し、管理 環境活動実施計画書・記録書を承認 環境活動の取組結果を代表者へ報告
環境事務局	環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己 チェックの実施 環境関連法規一覧の作成 環境目標・環境活動実施計画書原案の作成 環境活動実施計画の実績集計
内部監査	内部監査の実施及び内部監査チェックリストの作成 環境経営代表者への内部監査状況の報告及び改善提案
部門責任者	各部門ごとの環境活動実施計画書・記録書を作成 各部門ごとの環境活動実施手順書を作成 自部門に関連する環境目標及び環境活動計画の実施及び達 成状況の報告 部門の問題点の発見、是正、予防処置、報告
全従業員	環境方針を理解と環境への取組の重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加 個人行動計画表への記入

環境 – Environment 環境経営方針

環境経営方針

1. 基本理念

植物のちからを引き出し、新たな価値を創造し、人々の健康と社会の発展に貢献します。植物資源の調達から、植物化学研究、製品化まで、環境、社会への影響を重視し、持続可能な開発を目指します。また、薬用植物の栽培と教育を通じて、植物への感謝を示し、人と植物の明るい未来づくりに貢献します。

2. 環境方針

私たちは環境問題、SDGs（持続可能な開発目標）を重視し、以下の方針を遵守します。また、「佐倉市ゼロカーボンシティ宣言」を支持し、2030年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指します。

①環境経営体制の強化

環境改善を継続的かつ発展的に行っていくための経営管理サイクルを強化します。
第三者機関による分析・評価の結果を真摯に受け止め、目標の見直しと改善を継続します。

②カーボンニュートラルを目標に、省エネルギーおよびCO2排出量削減の推進

エネルギー効率を高め、環境にやさしい事業活動に取り組みます。

③循環経済（Circular Economy）に向けた4R（Rethink、Reduce、Reuse、Recycle）の推進

廃水、廃棄物及び食品廃棄物の低減、化学物質使用量削減、有効資源の再使用、紙、ダンボール、金属及び食品等の再資源化を積極的に行います。
グリーン購入の推進に努め、食品製造工程の改善により、原材料ロスを削減します。

④環境関連法規の遵守

環境法規を遵守し、国や地方の行政方針に従います。

⑤環境方針の周知と教育の推進

地球環境と共栄していくため、社員一人一人の環境保全の意識を高めます。また、薬用植物の栽培と教育を推進し、薬用植物の保全に貢献します。

⑥地域の人々との共生

地域社会の一員として、地域の人々の安全と環境保全に努めます。

2025年4月1日

株式会社常磐植物化学研究所
代表取締役社長

立崎 仁

環境 – Environment EA21活動 2024年度取組み

	項目	取り組み内容	評価
全施設	二酸化炭素排出量 (電力)の節減	<ul style="list-style-type: none"> ■各施設・工場での電気消し忘れ防止(チェックシートの運用) ■機器メンテナンスの手順化・スケジュール化 ■空気清浄機の定期清掃 ■省エネ機器の導入(太陽光パネル設置後の運用確認) ■太陽光パネルの発電量確認 ■未使用時・休憩時・退出時の電気機器・照明の電源確認 ■冷蔵庫・冷凍庫の使用方法の見直し 	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
	二酸化炭素排出量 (燃料)の節減	<ul style="list-style-type: none"> ■ボイラー管理 ■蒸気漏れ定期点検及び修繕 ■電動式フォークリフトへの更新 ■カーボンオフセットLNGへの切り替え ■社用車の走行距離、ガソリン購入費の記録、メンテナンス ■エコドライブ10のすすめアナウンス ■社用車のEV車導入 	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
	一般廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> ■廃プラの分別回収し固形燃料化 ■廃棄物量・分別の管理 ■生ごみ処理機使用→残飯のたい肥化による食品ロスの削減 ■資源ゴミ・空カートリッジ回収・管理 ■紙類・コピー用紙の削減 ■新規活用方法、取引先の開拓 	○ ○ ○ ○ ○ ○
	産業廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> ■残渣の堆肥化 ■産業廃棄物量の分別管理 ■食品廃棄物の分別管理 ■鉄くず廃プラの分別整理 ■ガラス器具破損防止 	○ ○ ○ ○ ○

	項目	取り組み内容	評価
全施設	水使用量(放流量)の削減	<ul style="list-style-type: none"> ■工場内の水漏れの定期点検 ■工場用水の使用量の把握と管理 ■工場用水・水漏れ箇所の修繕 ■洗浄工程見直しによる節水立案・実施 ■退出時に元栓の開閉見回り ■流量計のデータ収集とアナウンス ■本社水使用量の管理、アナウンス 	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
	化学物質使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ■エタノール購入量の管理 ■残渣乾燥機からのエタノール回収量確認(装置稼働と管理含む) ■クロロホルム・アセトニトリルの使用量確認 ■毒劇物試薬における使用量の管理 ■抽出残渣乾燥機の導入・運転 ■移動相使用量削減に向けたHPLC分析方法の作成 	○ ○ ○ ○ ○ ○
	製品についての再生品の低下	<ul style="list-style-type: none"> ■再生品の把握と管理 ■再生品発生の原因確認 	○ ○
東京支社	環境経営効率の向上(売上の向上)	<ul style="list-style-type: none"> ■新規顧客開拓 ■国内の展示会出展・ウェビナー実施 ■機能性表示食品受理件数の把握 ■水漏れの点検 	○ ○ ○ ○
本社	再利用・再活用 地域清掃活動	<ul style="list-style-type: none"> ■「あげたい!もらいたい!みんなの不用品マッチングアプリ」 ■月一回の地域周辺美化活動の実施 	○ ○

環境 – Environment 関連法規

適用法令等の遵守状況 違反、訴訟等の有無：下記のように環境関連法規制等の違反はありません。また食品リサイクル法における再生利用等の実施率は80%以上を維持できています。なお関係当局からの違反等の指摘は、過去13年間ありません。 (2025年5月31日時点)

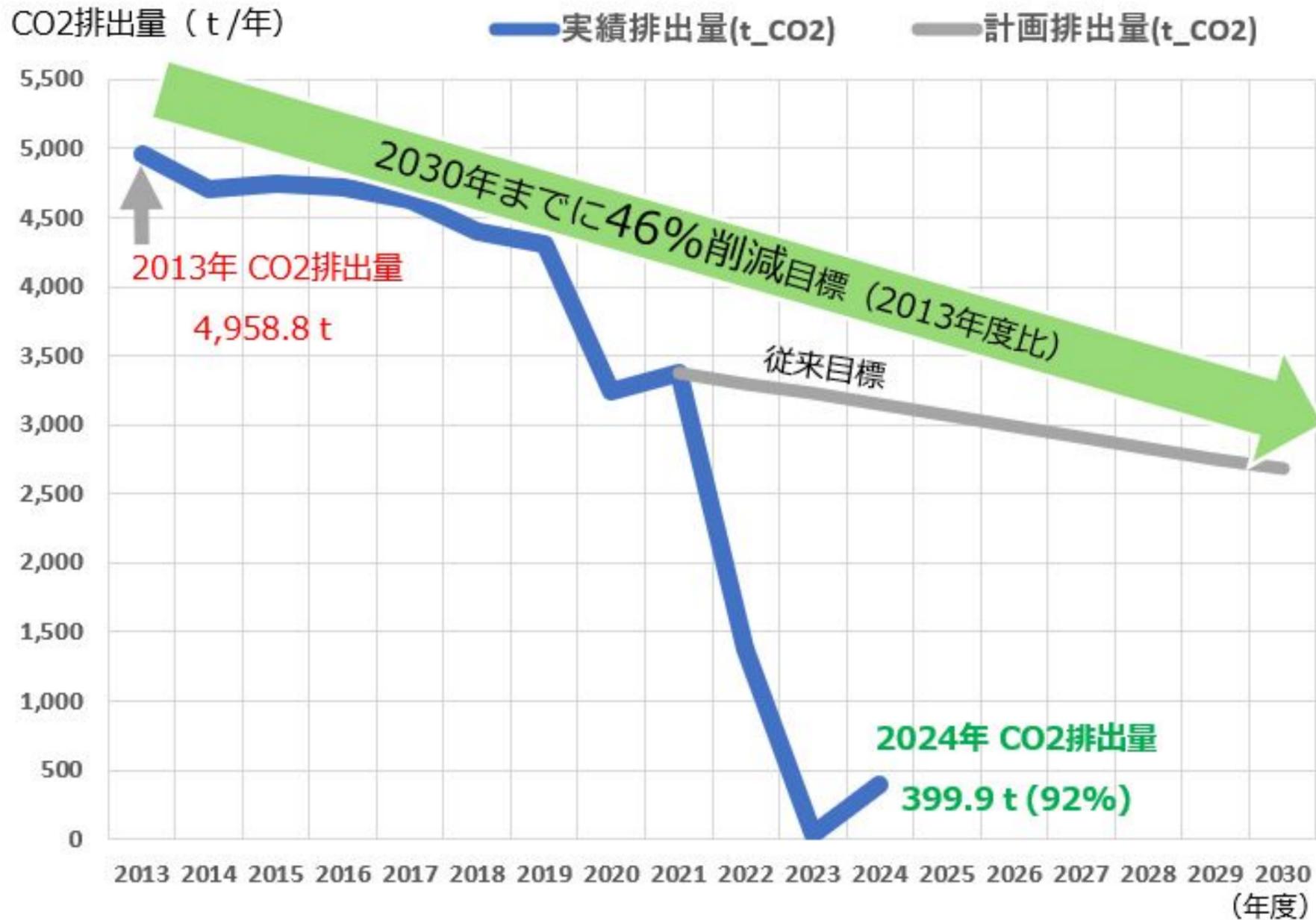
設備・項目	環境関連法規	届出	定期報告	定期点検	その他
全事業所	温対法		○		
	下水道法	○	○	○	
	省エネ法	○	○		
	プラスチック資源循環法			○	
	家電リサイクル法			○	
	自動車リサイクル法			○	
本社・工場	労働安全衛生法			○	健康診断
	工場立地法	○			
工場設備	騒音規制法	○		○	
	振動規制法	○			

環境 – Environment 関連法規

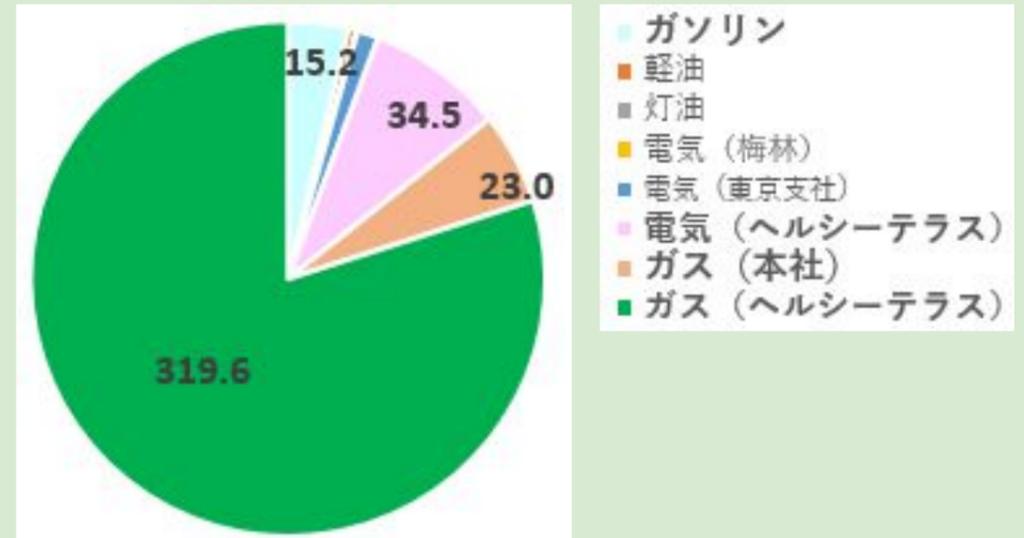
適用法令等の遵守状況 違反、訴訟等の有無：下記のように環境関連法規制等の違反はありません。また食品リサイクル法における再生利用等の実施率は80%以上を維持できています。なお関係当局からの違反等の指摘は、過去13年間ありません。(2025年5月31日時点)

設備・項目	環境関連法規	届出	定期報告	定期点検	その他
研究棟	PRTR法	○		○	
	高圧ガス保安法			○	
工場、蒸留塔、地下タンク等	消防法	○	○	○	
スプレー乾燥機、残渣乾燥機	悪臭防止法	○			
工業用井戸	工業用水法		○		許可有
冷蔵、冷凍コンテナ等	フロン排出抑制法			○	機器の調査・点検
食品廃棄物	食品リサイクル法	○	○		
ディーゼルトラック	NOx・PM法			○	
堆肥場	肥料取締法	○			
一般及び産業廃棄物	廃棄物処理法		○		マニフェスト管理
ボイラー	公害防止組織法、大気汚染防止法	○			

環境 – Environment CO2排出推移 (2013年～2024年実績)



2024年度CO2排出量(t_co2)



2024年度CO2排出量は、実質399.9 t_CO2でした。
2013年度比削減は、92%となりました。

2024年の主な排出量の内訳は、以下となりました。

スコープ1

- ①ガス(ヘルシーテラス) ; 319.6 t
- ②ガス(本社) ; 23.0 t
- ③ガソリン ; 15.2 t

スコープ2

- ①電気(ヘルシーテラス) ; 34.5 t

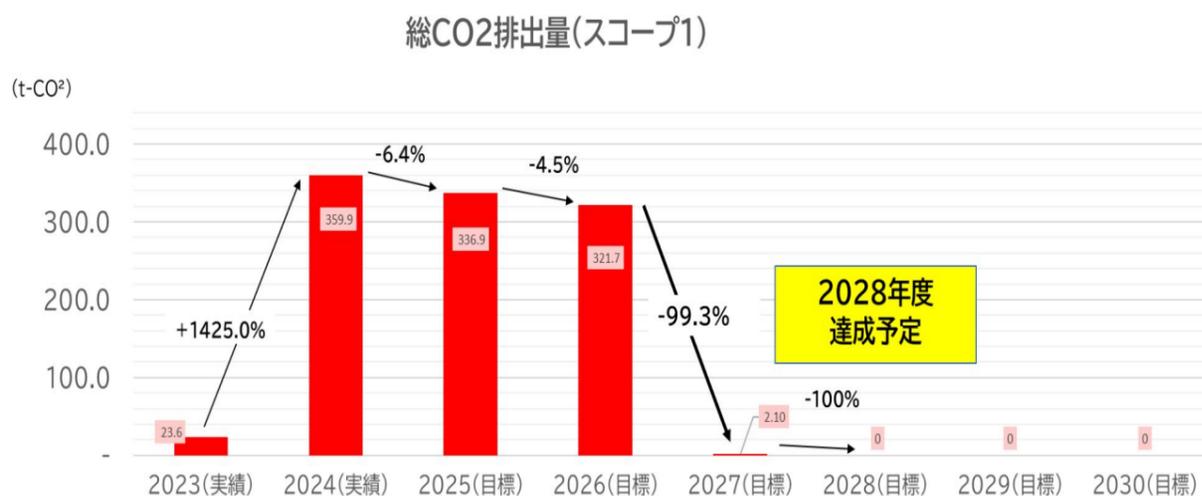
*sakuraヘルシーテラスを排出量に追加しました。

環境 – Environment 環境データ

●CO2排出量（2025年度以降削減計画）

E4

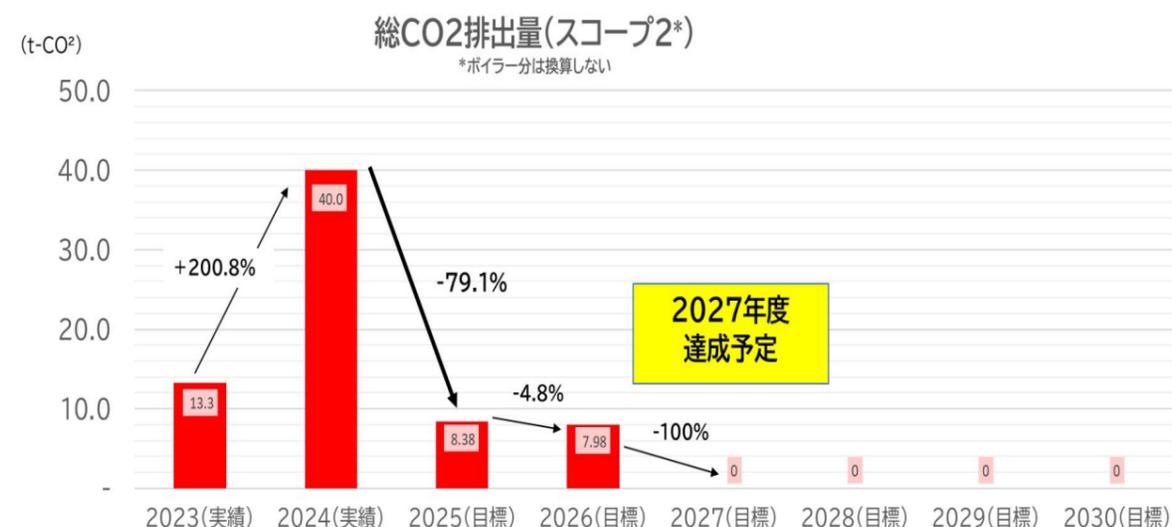
CO2実質排出量（スコープ1）



E4

CO2実質排出量（スコープ2*）

*ボイラーはカーボンオフセットエネルギーを使用している事で換算しない



2024年度は、新たにsakuraヘルシーテラスを稼働し、エネルギー使用量が大きく上昇しました。
2025年度に、電気（スコープ2）をCO2フリーの電気に切替え削減を計画しています。
また、ガス（スコープ1）は、2026年度以降の対応を計画しています。ガソリン（スコープ1）については、2025年フォークリフトのEV車へ切り替えを計画し削減を進めます。

環境 – Environment 環境データ

●2024年度環境実績（項目別：電気/都市ガス/廃棄物/化学物質/水）

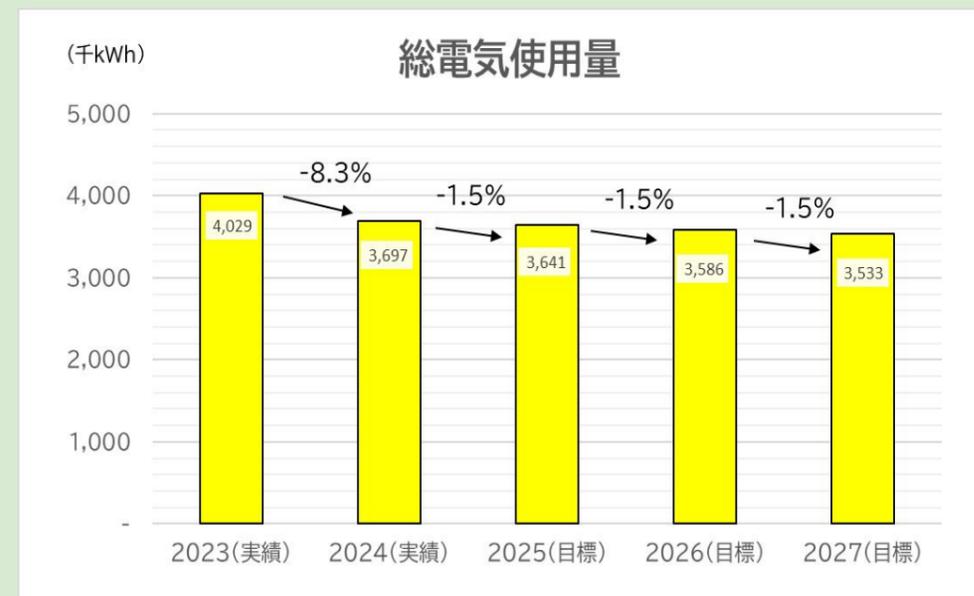
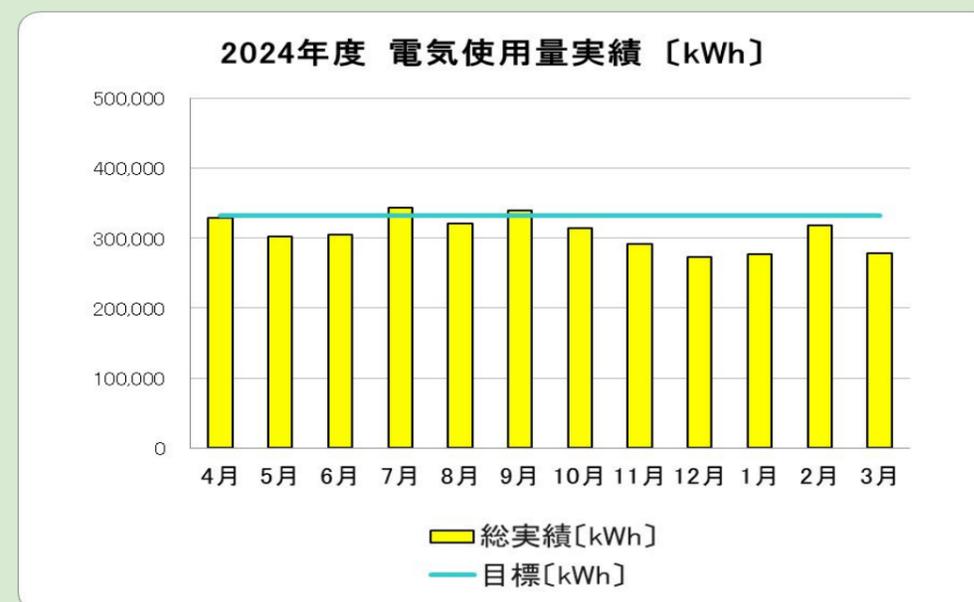
E4

環境活動計画の目標値、実績
及びその評価(全事業所)

項目	目標値と実績値	評価
電力使用量	目標値：3,988,353kWh 実績値：3,696,511kWh	目標達成！
CO2排出量	目標値：440,213 kg-CO2 実績値：399,956 kg-CO2	目標達成！
都市ガス使用量 (※ボイラー除く)	目標値：1,084 m3 実績値：1,013 m3	目標達成！
一般廃棄物量	目標値：38.171t 実績値：27.670t	目標達成！
食品・産業廃棄物量	目標値：942t 実績値：877t	目標達成！
化学物質使用量	目標値：795,960L 実績値：795,200L	目標達成！
総排水量	目標値：97,693m ³ 実績値：106,890m ³	目標未達成

E4

電気使用量
(2024年月別実績、2023～2027年実績・計画)



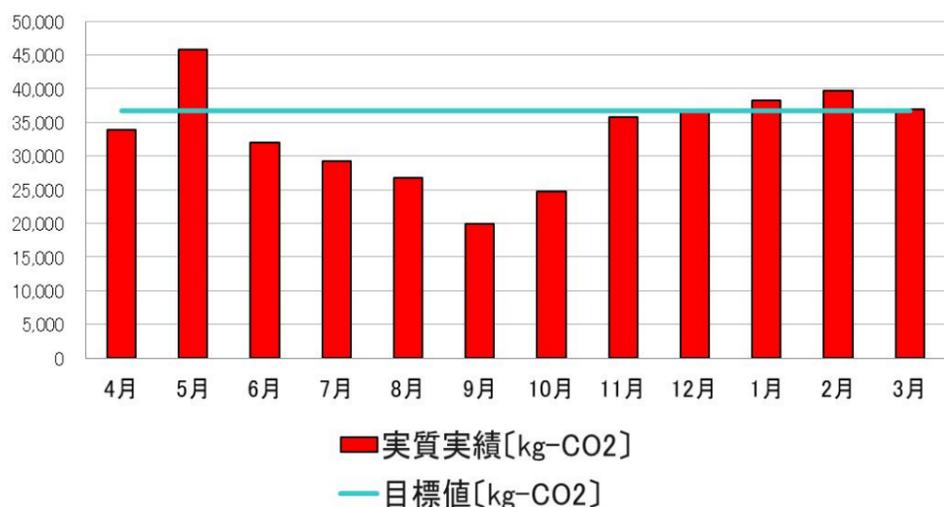
省エネ、設備の効率的な稼働により、削減計画を大きく向上できました。

環境 – Environment 環境データ

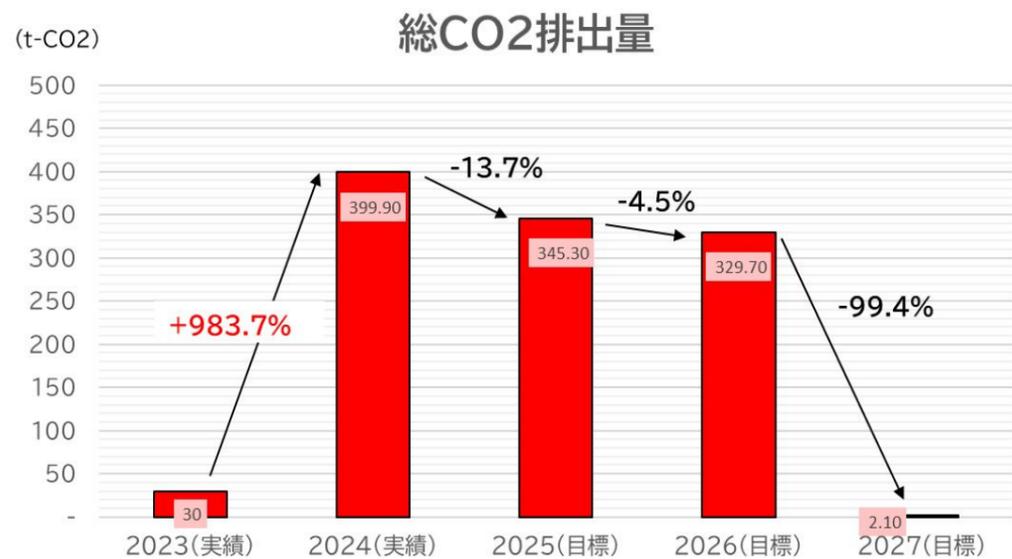
E4

CO2実質排出量実績 (2024年月別実績、2023~2027年実績・目標)

2024年度 総CO2排出量実績 [(kg-CO2)]



※目標値にオフセット都市ガス分は含まれておりません。



E4

第三者算定機関による サプライチェーンCO2排出量の算出

2024年度のCO2排出量について、第3者算定機関より「温室効果ガス排出量検証」を実施いたしました。結果は下記の通りです。

検証された温室効果ガス排出量 (t-CO2e)	
スコープ1	359.9
スコープ2	1828.5

算定対象：本社および工場、東京支社、梅林倉庫、sakuraヘルシーテラス
算定方法：温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度および事業者の算定手順

サプライチェーン排出量

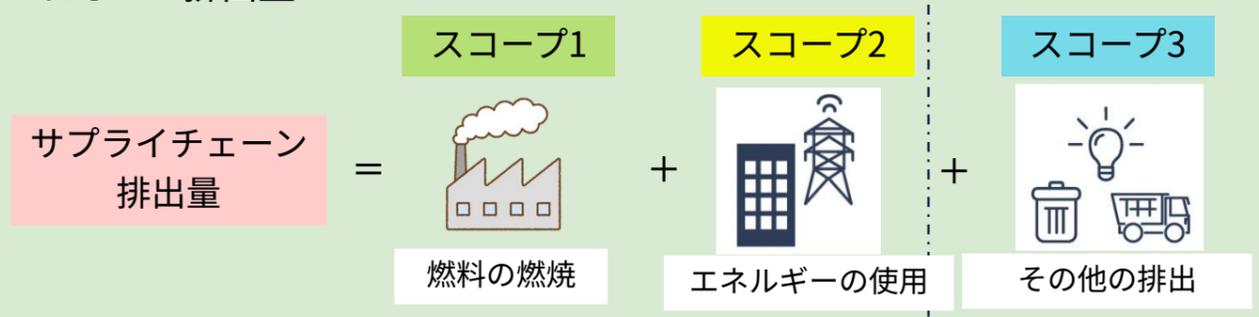
「事業者自身」と「事業活動において関わるあらゆるところ」から排出される温室効果ガス総量

1) スコープ1温室効果ガス排出量

事業者自らの燃料燃焼や工業プロセスに伴って直接的に排出されるCO2排出量

2) スコープ2温室効果ガス排出量

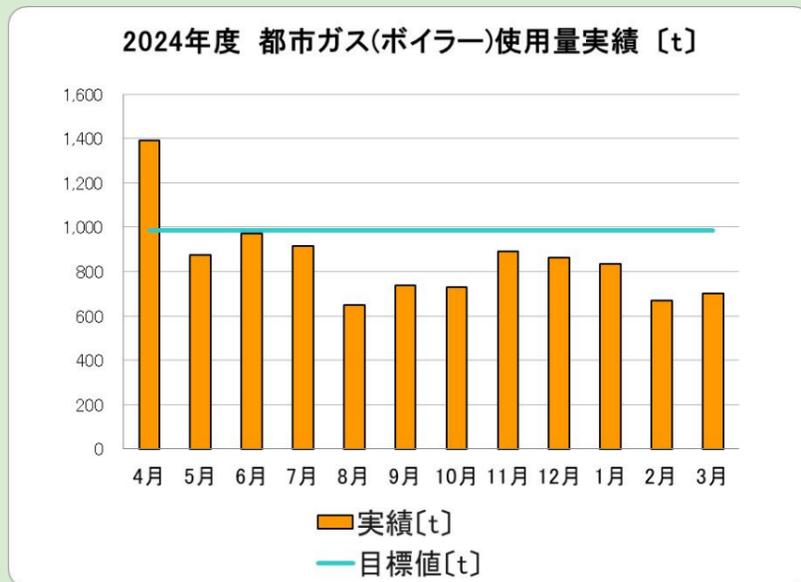
他社より供給された電力、蒸気などのエネルギー使用に伴って間接的に排出されるCO2排出量



環境 – Environment 環境データ

E4

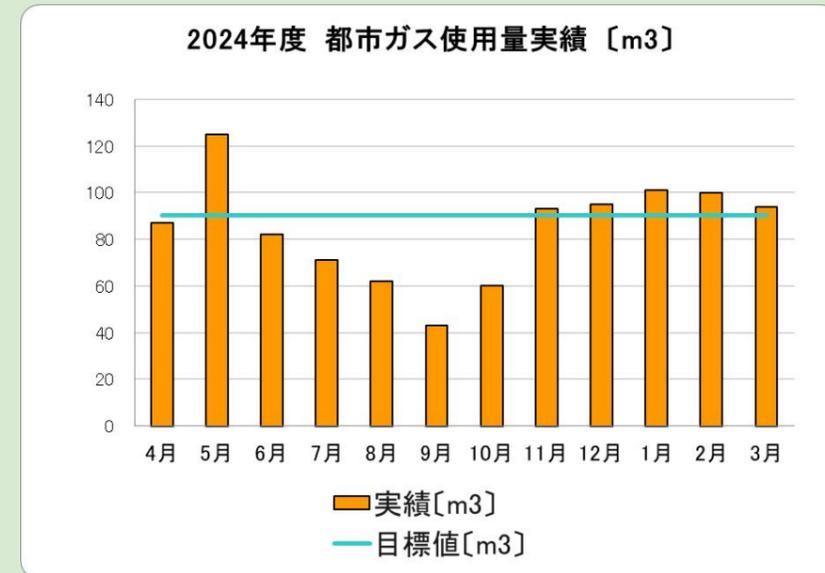
都市ガス(ボイラー)使用量 (2024年月別実績、2023~2027年計画)



電気の省エネ同様に、ボイラーの稼働を最適化し大きな削減を出しました。2023年度は m3 にて報告。2024年度から t に変更し報告します。

E4

都市ガス(ボイラー除く)使用量 (2024年月別実績)



※sakuraヘルシーテラスの稼働に伴い、データを区分けし管理を進めていきます。

E2

食品廃棄物発生量及び食品循環資源の 再生利用量等の実施率 (2024年月別実績)

【再生利用等実施率の実績値に関する内訳】 目標値:100%

- ①発生量 541.9 t
- ②発生抑制の実施量 560.7 t
- ③再生利用量 541.9 t
- ④熱回収実施量 0.0 t
- ⑤廃棄物の減少実施量 0.0 t
- ⑥再生利用以外の実施量 0.0 t
- ⑦廃棄物処分実施量 0.0 t

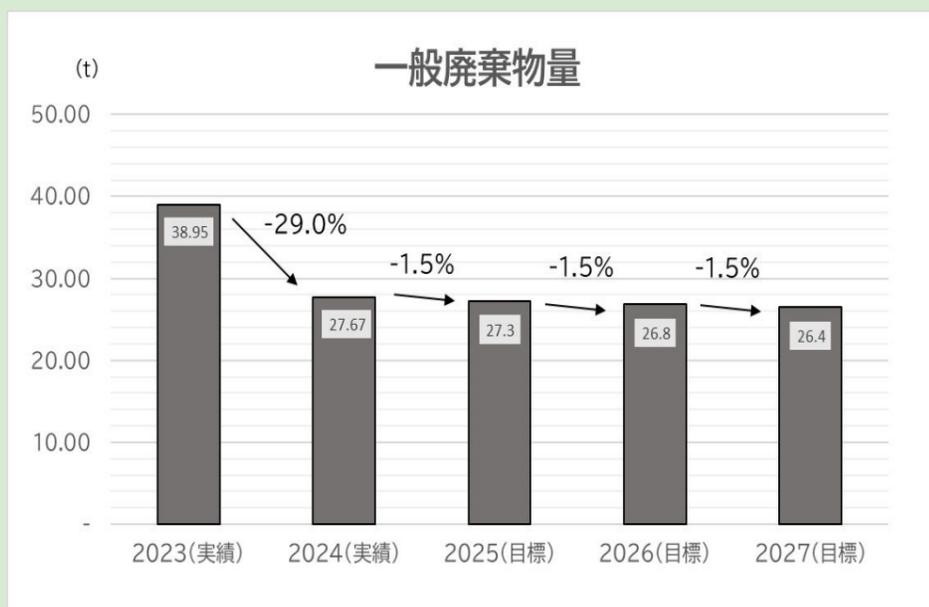
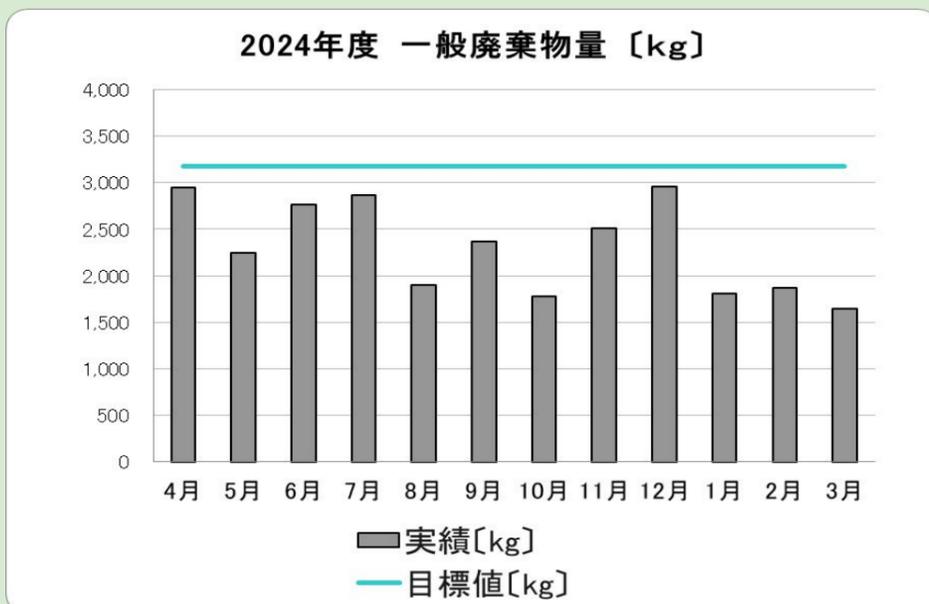
食品循環資源の
再生利用実施率(%)

$$= \frac{(②+③+④) \times 0.95 + ⑤}{①+②} \times 100 = 100\%$$

環境 – Environment 環境データ

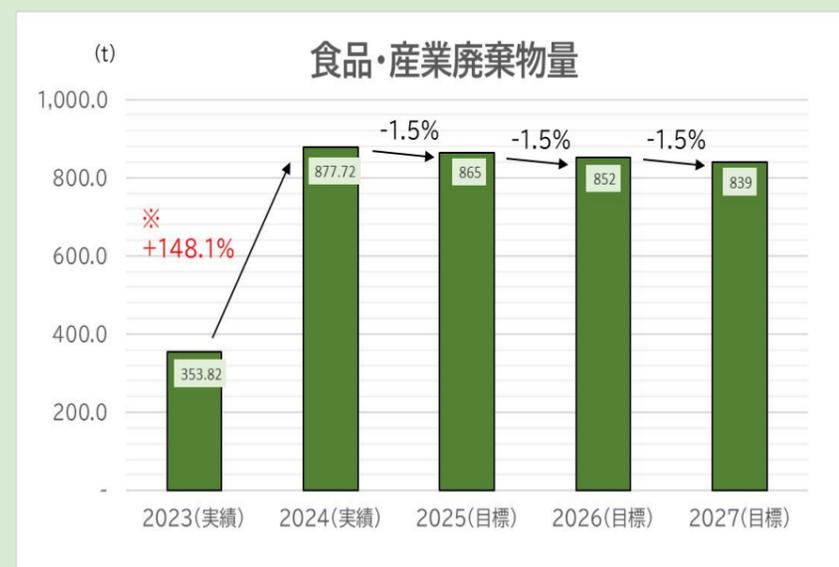
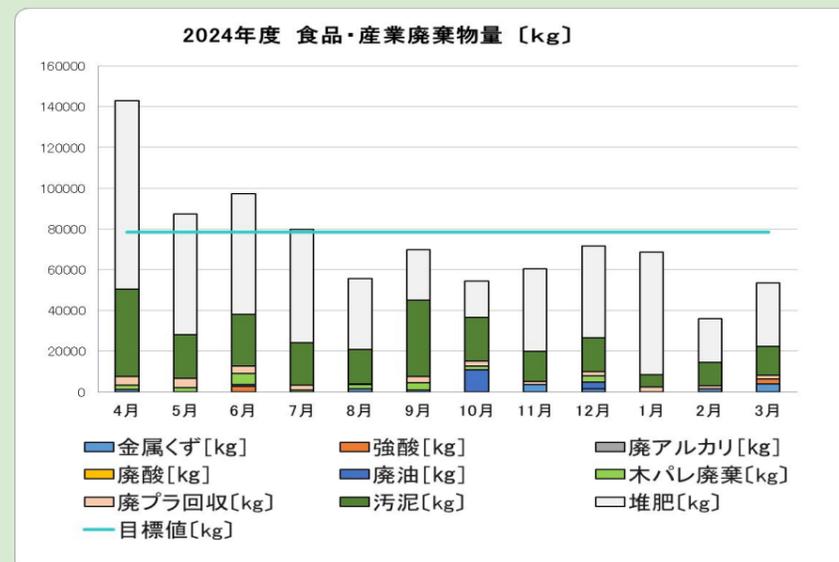
E2

一般廃棄物量 (2024年月別実績、2023~2027年実績・計画)



E2

食品・産業廃棄物量 (2024年月別実績、2023~2027年計画)



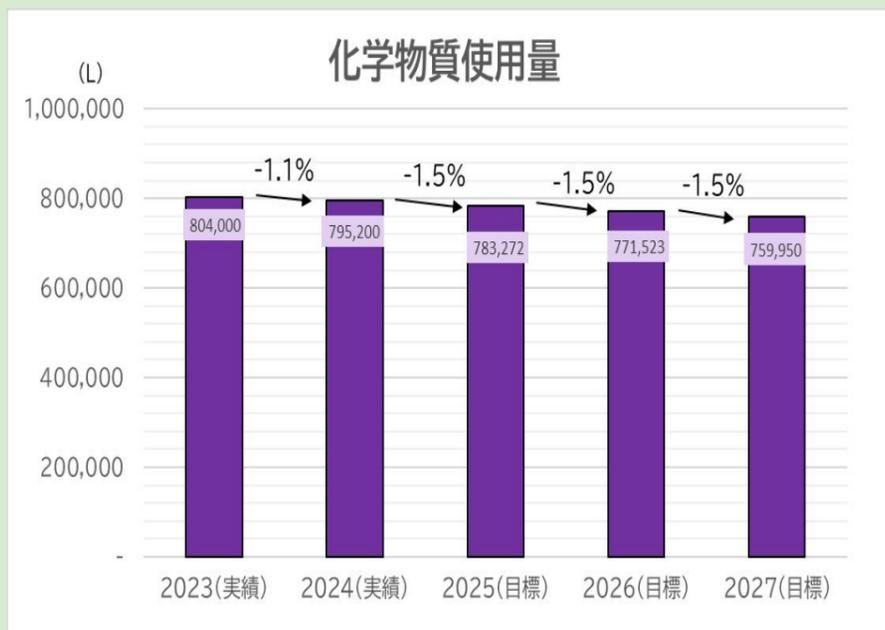
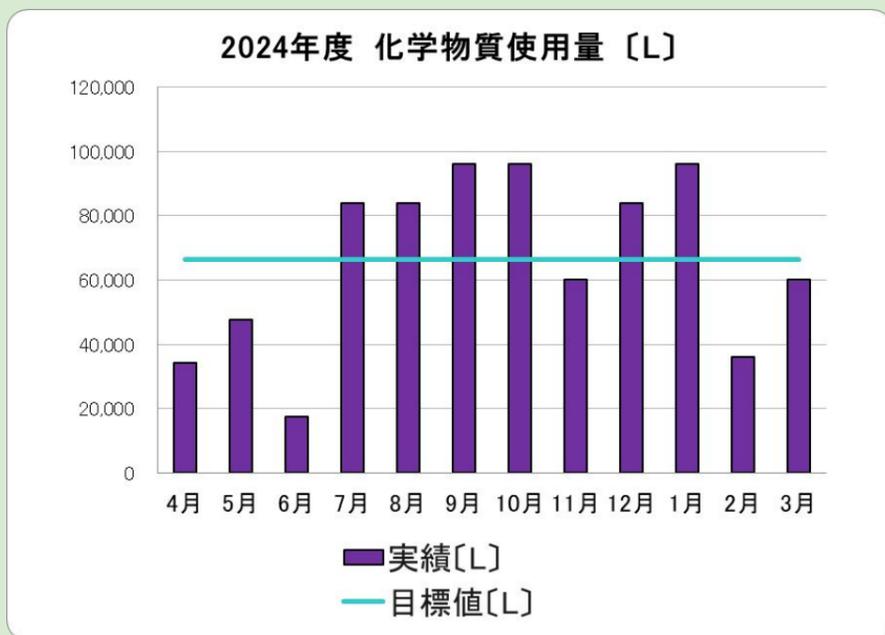
※2023年12月から堆肥、汚泥を含めすべてがマニフェスト対応となり、目標値も合計値へと修正しています。

環境 – Environment 環境データ

E2

化学物質使用量

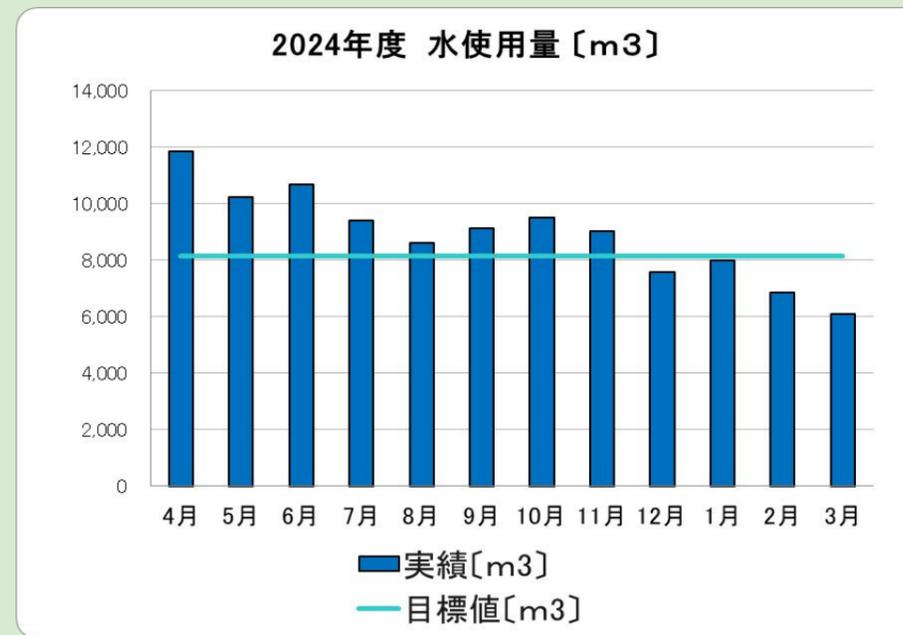
(2024年月別実績、2023~2027年実績・計画)



E2

水使用量

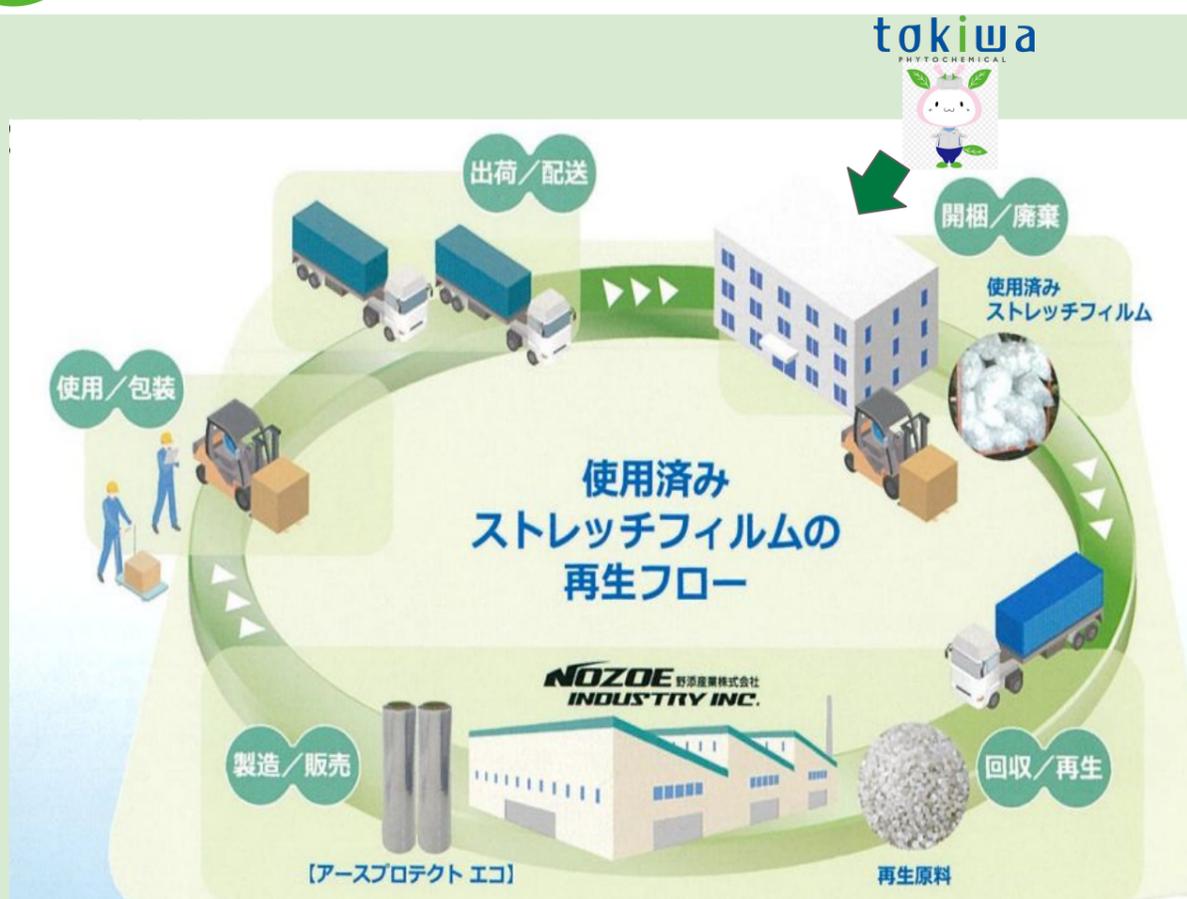
(2024年月別実績、2023~2027年実績・計画)



環境 – Environment 新規取組み

E2

【産業廃棄物量】
ストレッチフィルムの資源循環



図：株式会社野添産業 資料より抜粋

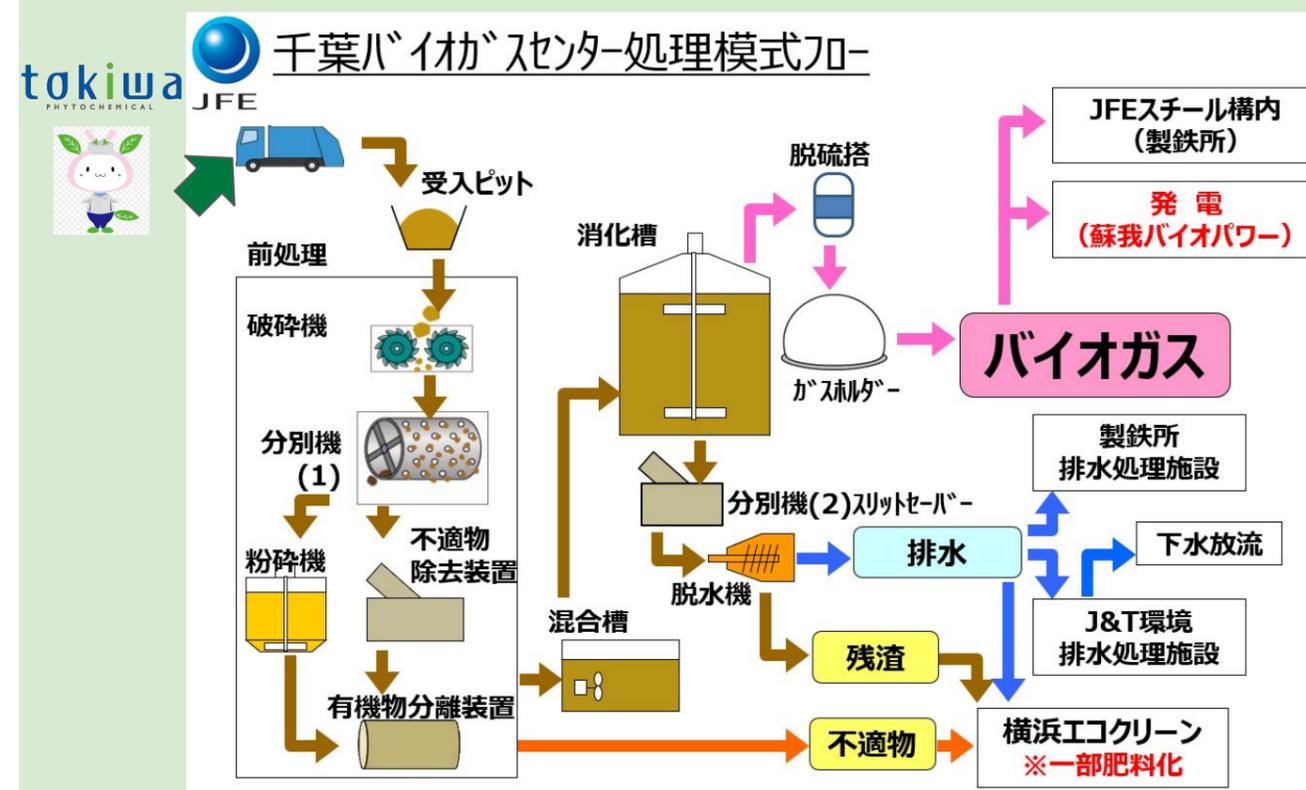
これまで廃棄処分していたストレッチフィルムを、分別し「有価物」として回収する取組みを2024年度から開始しました。

回収されたストレッチフィルムはリサイクルされ、新たなストレッチフィルム製品として生まれ変わります。

生まれ変わった製品は、再び購入・使用することで、資源を「使い捨て」ではなく、「循環させて使う」サイクルを実現し、環境負荷の低減と持続可能な資源活用に貢献しています。

E2

【産業廃棄物量】
残渣のバイオガス化



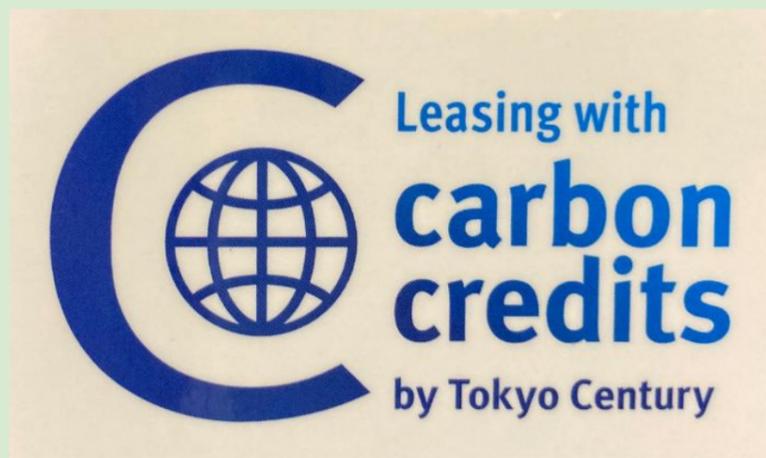
図：J&T環境株式会社 資料より抜粋

肥料や飼料としてリサイクルが難しい残渣を近隣企業に運搬し処理して頂いています。従来の処理と異なるバイオガス発電施設での実証実験を開始しました。ここでメタン発酵を通じてバイオガスに変換し、そのバイオガスでの発電として残渣を活用しています。

環境 – Environment 新規取組み

E4

【CO2排出量】
オフセット付PCの導入



裏面に
オフセットシール
があるため！

富士電機ITソリューション株式会社様と東京センチュリー株式会社様のカーボンオフセット付きPCを導入させていただき、CO2オフセットを新たな取り組みとして開始しました。

日常的に使用するPCにCO2オフセットが付くことで、身近にエコアクションを意識し、環境に優しい商品を選定する環境をつくりました。

E4

【CO2排出量】
ガソリン車をEV車へ更新



社用車で使用しているガソリン車をEV車へ2台導入切り替えました。オフセットされた電気を使用して充電することで化石燃料（ガソリン）の消費、CO2排出量の低減を進めています。

EV車は環境への貢献をアピールするラッピングをしています。地域を走行する事でCO2排出量ゼロをアピールし、地域の皆様と環境負荷の低減に繋げる取り組みを推進しています。

環境 – Environment 継続取組み

E1

【排水量】 水質に配慮した生産活動



工場で利用した後の排水は、きれいにして自然に還す水質保全に取り組んでいます。

工場に併設されている排水処理設備では、「活性汚泥処理法」を採用し、微生物が排水の汚れである栄養成分を食べることにより、汚れを取り除いています。

E2

【一般廃棄物量】 食品ロス低減に向け生ごみ処理機活用



生ごみ処理機

新たな土へ

sakuraヘルシーテラスの昼食で、食べきれなかった生ごみは、一般廃棄物から微生物の力でたい肥化を継続しています。

食品ロスの低減は、昼食を利用する社員、お客様に必要な量を選択できる対応としてロスの削減に努めています。
たい肥は、自社ハーブ園やJR佐倉駅、佐倉市役所で新たな植物を育てるために使用されています。

E2

【CO2排出量】 グリーン調達・グリーン購入



グリーン調達とは、原材料・資材・設備などの購入に際し、有害物質を含まない、資源が有効に活用されている、など環境に配慮した物品・サービスを優先的に選択することです。

使用する物品について、環境負荷ができるだけ小さい原材料・資材・設備等の購入をめざしています。

2024年度の消耗品購入率は、35%でした。

環境 – Environment 継続取組み

E2

【食品・産業廃棄物量】 植物資源廃棄物のリサイクル



【ゼロエミッション活動】

植物エキスの製造後に排出される搾りかすを肥料や畜産のクッション材としてリサイクルする取り組みを行い、新たな資源創生につなげています。

【抽出残渣乾燥機導入】

抽出残渣に残っている抽出溶媒（有機溶媒）を乾燥工程で回収・再精製し、再利用できる設備を導入しています。これにより、化学物質の使用量抑制や、廃棄物量および運搬による環境負荷の低減につながります。



抽出残渣を堆肥に



E4

【CO2排出量】 太陽光発電



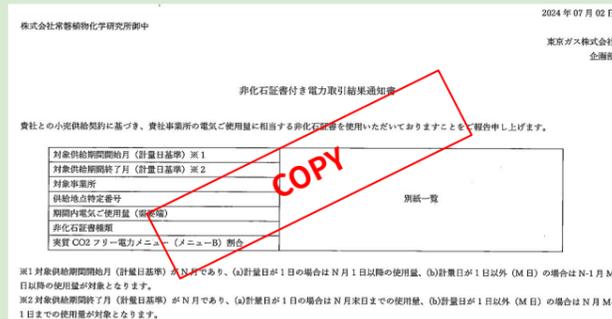
工場屋根に設置した太陽光パネルを使用し、CO2削減を進めています。この太陽光パネルは定期的にメンテナンスを行い、発電効率を落とさない取り組みを進めています。

購入する電気量は、安定して減らす（平均10%）ことで地球温暖化対策に貢献しています。

この電気を使用して、EV社用車、EVフォークリフトの充電に活用し、停電時や有事の際は、BCPとして非常用電源として利用できるよう準備を行いました。

E4

【CO2排出量】 カーボンオフセットエネルギーを使用



2023年度に引き続き、都市ガス、電気をオフセットエネルギーとして購入し使用しています。

あげたい！もらいたい！ みんなの不用品マッチング



本制度は、社員が「あげたい」と考えているものを、「もらいたい」という社員に譲り受ける制度です。社員間で物品を有効活用することで、廃棄物の削減につながり、環境への配慮と資源の有効活用を推進しています。

2024年度は、使用しなくなった冷蔵庫や電気ケトル、絵本、おもちゃ、お菓子などが出品されました。

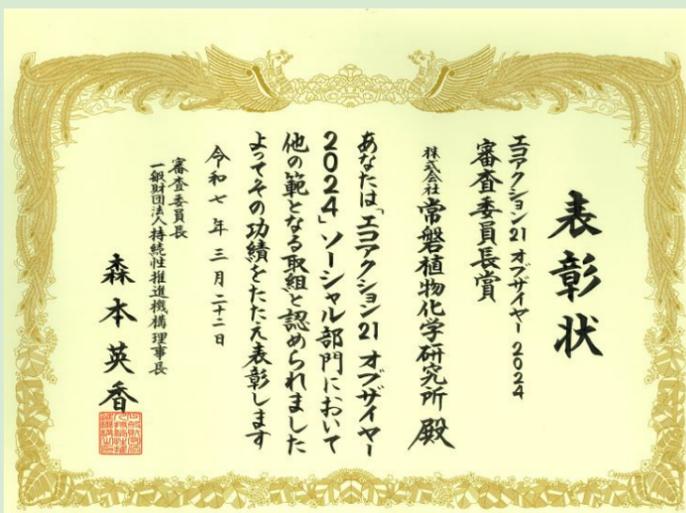
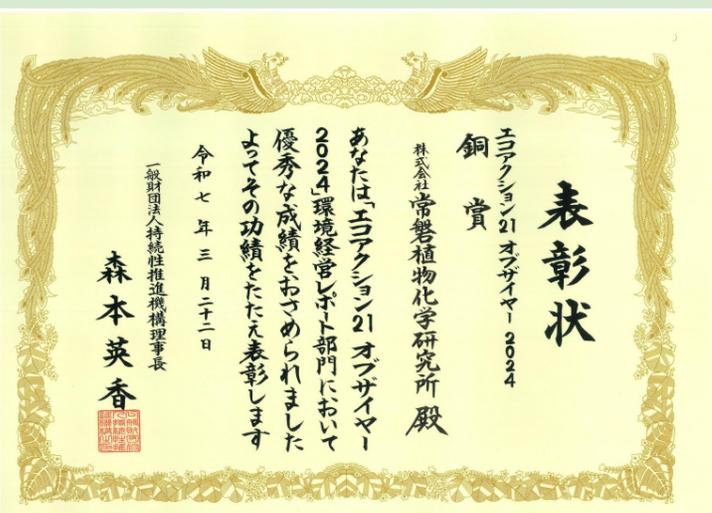
環境 – Environment EA21活動 2025年度実施予定の取組み

	項目	取組み内容
全施設	二酸化炭素排出量 (電力)の節減	<ul style="list-style-type: none"> ■各施設・工場での電気消し忘れ防止(チェックシートの運用) ■機器メンテナンスの手順化・スケジュール化 ■空気清浄機の定期清掃 ■省エネ機器の導入(太陽光パネル設置後の運用確認) ■太陽光パネルの発電量確認 ■未使用時・休憩時・退出時の電気機器・照明の電源確認 ■冷蔵庫・冷凍庫の使用方法の見直し ■太陽光パネル増設準備(排水処理場、ヘルシーテラス) ■給湯器本社ガスを電気へ(本社節水も兼ねる) ■梅林倉庫の電力省エネ(水銀灯からLEDへ変更) ■ヘルシーテラス脱炭素電力契約 ■オフセットリースPC導入
	二酸化炭素排出量 (燃料)の節減	<ul style="list-style-type: none"> ■ボイラー管理 ■蒸気漏れ定期点検及び修繕 ■電動式フォークリフトへの更新 ■カーボンオフセットLNGへの切り替え ■社用車の走行距離、ガソリン購入費の記録、メンテナンス ■エコドライブ10のすすめアナウンス ■社用車のEV車導入 ■オフセットガソリンの導入準備 ■ヘルシーテラス脱炭素ガス調査 ■回転フォークのEV化
	一般廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> ■廃プラの分別回収し固形燃料化 ■廃棄物量・分別の管理 ■生ごみ処理機使用→残飯のたい肥化による食品ロスの削減 ■資源ゴミ・空カートリッジ回収・管理 ■紙類・コピー用紙の削減 ■新規活用方法、取引先の開拓

	項目	取組み内容
全施設	産業廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> ■残渣の堆肥化 ■産業廃棄物量の分別管理 ■食品廃棄物の分別管理 ■鉄くず廃プラの分別整理 ■ガラス器具破損防止
	水使用量(放流量)の削減	<ul style="list-style-type: none"> ■工場内の水漏れの定期点検 ■工場用水の使用量の把握と管理 ■工場用水・水漏れ箇所の修繕 ■洗浄工程見直しによる節水立案・実施 ■退出時に元栓の開閉見回り ■流量計のデータ収集とアナウンス ■本社水使用量の管理、アナウンス
	化学物質使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ■エタノール購入量の管理 ■残渣乾燥機からのエタノール回収量確認(装置稼働と管理含む) ■クロロホルム・アセトニトリルの使用量確認 ■毒劇物試薬における使用量の管理 ■抽出残渣乾燥機の導入・運転 ■移動相使用量削減に向けたHPLC分析方法の作成
	製品についての再生品の低下	<ul style="list-style-type: none"> ■再生品の把握と管理 ■再生品発生の原因確認
東京支社	環境経営効率の向上 (売上の向上)	<ul style="list-style-type: none"> ■新規顧客開拓 ■国内の展示会出展・ウェビナー実施 ■機能性表示食品受理件数の把握 ■水漏れの点検 ■省エネ(電気)活動
本社	再利用・再活用 地域清掃活動	<ul style="list-style-type: none"> ■「あげたい!もらいたい!みんなの不用品マッチングアプリ」 ■月一回の地域周辺美化活動の実施 ■ペットボトルキャップ回収でワクチンに

環境 – Environment 受賞

エコアクション21オブザイヤー2024 2部門受賞



エコアクション21オブザイヤーは、環境経営レポート及び社会課題解決に繋がる取り組みを顕彰する事で、脱炭素の社会を実現し、SDGsの達成に向けた多様な取り組みを国内に広く発信するとともに、環境の取り組みを加速させることを目的として、一般社団法人持続性推進機構が行っているアワードです。

代表者による評価と見直し

2024年度の環境への取り組みは、事業成長に合わせ増加するCO2排出量を、2013年比で99%削減を維持することを目標として推進して参りました。

sakuraヘルシーテラスの運営に合わせ、電気とガスのCO2排出量が増加し、工場の省エネを進めて参りましたが、2013年比で92%削減の結果となりました。新たな施設の使用量を年間モニタリングしデータ化する事でCO2排出量の削減に向けた取り組みを加速して参ります。

エコアクション21の活動は、エコアクションオブザイヤー2024 ソーシャル部門で【審査委員長賞】、環境経営レポート部門で【銅賞】の表彰をいただきました。2024年度に植物の生存戦略マंडラから学んだことを、環境への取り組みとして活かし、今後の活動の中で、「生かされる会社」になる、環境経営・ESG経営に繋げて参ります。

2025年度は、ポジティブインパクト評価で設定しました、KPI『「再エネ100宣言 RE Action」に登録』、を行い、環境に優しい企業活動を進めて参ります。

社会 – Social 目標と実績

No	側面	インパクト カテゴリ	取り組み内容	2030年度までのKPI・目標	2024年度 実績	関連する SDGs目標
S1	社会 経済	保健・衛生 経済収束	健康な社会づくり	2030年度までに健康に配慮したオリジナル商品2品目を開発・提供する	マテ抽出物「MATESOL」(マテソール)を2024年4月に上市。2025年2月に「内臓脂肪の減少に役立つ」で機能性表示食品対応化。	
S2	社会	保健・衛生	従業員の健康増進	①2025年度にヘルシーテラスの利用割合を80%とする ②健康経営優良法人を維持する	①93.9%*で達成。 *社員の年間食数/年間勤務日数×社員数－有給取得日数で算出 ②健康経営優良法人2025 ブライト500認定を取得。	
S3	社会	教育	教育活動への貢献 次世代人材の育成	①佐倉サイエンスアカデミー(研究者向け)を年1回開講する ②佐倉アカデミアを含む小中高生向け講義を年3回実施する ③2024年以降、年1回 松尾仁賞(植物化学シンポジウム)表彰を実施する	①2024年12月21日に第4回佐倉サイエンスアカデミーを開催。 ②教育CSRを4回実施 4月:佐倉市立南部中学校 ハーブ園見学 6月:佐倉市立根郷小学校 ハーブ園見学 7月:千葉県立佐倉高等学校 実験講座 9月:佐倉市立小竹小学校 ハーブ園見学 ③2024年11月22日に植物化学シンポジウム内で第2回松尾仁賞を実施。	
S4	社会	雇用	働きやすい 職場環境づくり	2026年度までにユースエール認定を取得する	2024年度は認定要件を満たしていないため、未申請。 →2025年度の各種要件実績を踏まえ、2026年度に申請予定。	
S5	社会	雇用	働きやすい 職場環境づくり	2030年度までに ①時間外労働の削減 残業時間 10時間未満/月 (直近11カ月の平均 15.1時間/月) ②有給休暇取得率の向上 付与された有給休暇日数の70%取得した人の割合70%以上(直近11カ月の平均 付与された有給休暇日数の70%取得した人の割合57%)	①時間外労働時間 平均 14.9時間/月 →2025年2月よりフレックスタイム制度を導入。導入による時間外労働時間の削減効果は2025年度の実績で評価していく。 ②有給休暇付与日数の70%以上取得者の割合 63% →定期的に取得状況をモニタリングし、社内へ取得勧奨をしていく。	
S6	経済	経済収束	地域社会への 貢献	本社・自社工場を災害時等のBCP拠点化し、2030年度までに拠点としての体制を整備する	必要要件について確認中であり、具体的な進捗は無し。	 

社会 – Social 植物化学の発展と健康な社会づくり

S1

抗メタボ素材「MATESOL®」の開発



マテの葉を原料に、ダイエット訴求の新素材として「MATESOL®」を開発、2024年4月に上市しました。マテは南米でマテ茶として親しまれている植物です。
2025年2月に機能性表示食品で「内臓脂肪を減少させる」旨で受理されました。

S1

「SIRTMAX®」韓国MFDS認証取得



SIRTMAX



黒ウコン抽出物「SIRAMAX®」が韓国食品医薬品安全処（MFDS：Ministry of Food and Drug Safety）にて「体脂肪の減少」を訴求する健康機能食品原料として初の認証を取得しました。
今後、韓国向けの販促を加速させて参ります。

S1

「VENETRON®」 Natural Choice Awards Ingredient Edition

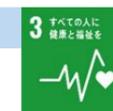


ラフマ葉抽出物「VENETRON®」がアメリカのNatural Choice Awards Ingredient Editionで、Women's Health Ingredient部門の準優勝を受賞しました。

Natural Choice Awardsはアメリカのメディア会社“WholeFoods Magazine”が主催する、22年間天然物由来の優れた製品を表彰してきたアワードです。

S1

「VENETRON®」 NutraIngredients-USA Awards 2024ファイナリスト



ラフマ葉抽出物「VENETRON®」が NutraIngredients-USA Awards 2024において、Specialty Awards部門のInnovations in Women's Health Awardsでファイナリストに選ばれました。

NutraIngredients-USA Awardsとは、栄養補助食品分野における優れた原料、最終商品、企業、個人、取り組みを表彰するものです。

社会 - Social 健康経営

S2

sakuraヘルシーテラス



2024年4月、本社隣に社員食堂としてオープンしました。管理栄養士によって考えられた健康的なランチを、福利厚生として毎日無料で提供しています。

ナチュラルな雰囲気の中で、隣接する佐倉ハープ園の四季折々の景観が見えるリラックス空間が特徴です。

一般客も利用可能で、昼食以外にも休憩所やワークスペース、イベント会場など、地域の皆様の憩いの場として利用されています。

S2

従業員のスポーツ推奨



2024年4月、本社向かい側に運動場「SAKURAスポーツパーク」をオープンしました。社員は無料で利用可能で、特に昼休みに集まって運動している様子が見られます。一般客も利用でき、小学生以下には無料で貸し出しています。

2024年度にはスポーツ庁から、従業員の健康増進のためにスポーツの実施に向けた積極的な取組を行っている企業として「スポーツエールカンパニー」の+認定をいただきました。

S2

S5

はたらき方改革 (選択的週休三日制、副業・兼業制度)



在宅勤務や選択的週休3日制を導入し、生活環境に合わせた働き方が選択できます。中には時差出勤で保育園への送迎の時間を確保するなどの活用例もあり、ご家庭を持つ社員の子育ても支援しています。

他にも有給・育児休暇取得の促進や副業・兼業制度を設けており、従業員の健康を守り、仕事とプライベートの調和のとれたワークライフバランスを推進しています。

S2

ラジオ体操指導員認定取得推奨 (ラジオ体操セミナー、ラジオ体操優良団体等表彰)



毎朝のラジオ体操を50年以上継続しているほか、従業員のラジオ体操指導員認定の取得を推奨しております。2024年6月には社内と地域の方々を対象に、全国ラジオ体操連盟の講師をお招きして「ラジオ体操指導員認定講習」を開催しました。社員のみならず地域を巻き込んだ、健康への積極的な取り組みを評価いただき、2024年度には「ラジオ体操優良団体の千葉県表彰」をいただきました。

左) 2級ラジオ体操指導士バッジ
右) ラジオ体操指導員認定バッジ

社会 – Social 教育支援

S3

第4回 佐倉サイエンスアカデミー



12月21日に第4回佐倉サイエンスアカデミーを開講いたしました。佐倉サイエンスアカデミーとは、世界で活躍されている研究者の方々に、植物化学（科学）について幅広く分かりやすくお話しいただく講義です。今回は千葉大学の後藤英司教授をお招きし、「宇宙農業」をテーマにした講演をしていただきました。今後も植物化学の発展や未来の科学者の育成に貢献するため、学びの機会を提供して参ります。

S3

第13回 佐倉アカデミア



7月24日に、千葉県立佐倉高等学校の生徒18名を対象に、佐倉アカデミアを開催いたしました。本取り組みは2012年から行っており、今回で13回目となります。実験講座では、樹脂を使ってカシス抽出液からアントシアニンを精製し、植物から特定成分を精製する原理・技術についての口座を行いました。今回の教育CSRを通じて、植物化学に興味・関心を持つきっかけとなれば幸いです。

S3

第2回 松尾仁賞



11月22日に植物化学研究会と「第60回植物化学シンポジウム 植物ケミカルが繋ぐ異種生物間情報ネットワーク」を共催し、第2回松尾仁賞を授与しました。

弊社では、植物化学発展に対する理念を次世代に繋ぐ一助として、本シンポジウムを開催しています。「松尾仁賞」が植物化学や社会の発展に貢献する研究の励みとなれば幸いです。

【受賞者】

- ・東京農業大学バイオサイエンス学科 佐伯 靖将 氏
- ・東北大学大学院理学研究科 西里 祐宇保 氏
- ・東京大学大学院農学生命科学研究科 影山 友史 氏



S3

高大連携活動カリタス女子中学高等学校



2023年から2年間にわたり行われていた日本薬科大学・カリタス女子中学高等学校の間で行われていた高大連携活動（植物成分配合の「のど飴」の開発）に、弊社が協力させていただきました。

のど飴の開発を通して、失敗からの学びや人との繋がり、協働の大切さなど、多くの気づきがあったとの声をいただきました。



社会 - Social 地域貢献

マルシェ開催



年に数回、ウェルビーイング施設を会場にマルシェを開催しています。キッチンカーやハンドメイド、ワークショップの出店者が多数集まり、1,000名を超えるお客様に会場に訪れています。

2024年度は6月、9月、11月の合計3回開催しました。

スポンサー協力



ジュニアラクロスクラブ「佐倉ビーグルス」、3X3プロバスケットチーム「北総ライノス」のスポンサーを務めており、スクールの開催場所としてSAKURAスポーツパークを提供しています。クラブチームの活動を通して子供たちの成長と地域活性に貢献しています。

また、佐倉出身のシンガーソングライター「ゆうなみ」さんのコンサートをsakuraヘルシーテラスで開催するなど、地域で活躍する方の活動も応援しています。

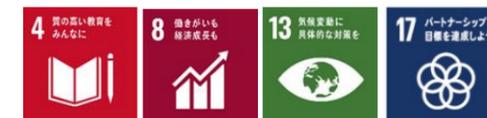
社会 – Social 地域貢献

地域行事協賛 (秋祭り、段ボールイカダCUP、佐倉花火フェスタ)



伝統文化の継承や地域の活性化に貢献するため、様々な地域行事に積極的に協賛しています。特に江戸時代から300年以上続く「佐倉秋祭り」では、山車の引き回しや神輿の担ぎ手として社員が参加し、地域の方々と祭りを盛り上げています。また、佐倉市の印旛沼で開催される「段ボールイカダCUP」、夏の夜空を彩る「佐倉花火フェスタ」といったイベントにも協賛し、地域の活性化に貢献しています。

環境経営・健康経営の講演



実施した講演

【環境経営】

- ・リーダーの寺子屋（主催：株式会社千葉興業銀行）
- ・食品業界若手経営者の会（主催：味の手帖）
- ・2024年度エコアクション21東日本ミーティング（主催：一般財団法人持続性推進機構 エコアクション21中央事務局）
- ・ちば脱炭素セミナー（主催：千葉県）
- ・千葉大学環境サステナビリティ実践学（主催：千葉大学）
- ・エコアクション21普及セミナー（主催：一般財団法人千葉県環境財団、千葉商工会議所、NPO法人環境カウンセラー千葉県協議会）

【健康経営】

- ・東京局連3県連部会長サミット（主催：(一般社団法人千葉県法人会連合会)
- ・知的財産経営WEEK2024（主催：特定非営利活動法人日本経営士協会）
- ・未来創造会SDGsセミナー（主催：佐倉未来創造会）

社会 – Social 地域貢献

能登半島地震チャリティー映画上映会



令和6年1月1日に発生した能登半島地震の被災地復興を支援するため、チャリティー映画上映会を開催しました。会場には上映した映画「ひとにぎりの塩」の監督である石井かほり様をお招きして、撮影当時の撮影秘話や能登へのメッセージを話していただきました。チケット料金と物販を合わせて、20万円を超える寄付が集まりました。

地域周辺美化活動



「地域の人々との共生」をテーマに、2007年より毎月、会社周辺の美化活動を行っており、2025年3月時点で実施回数は194回に上ります。

参加は挙手制で、歩道のゴミ回収、会社近くの神社境内の清掃、本社構内の草抜きなど、地域の景観を守るため、社員自ら積極的に取り組んでいます。

ちばビジコンサポーター賞の提供



「CHIBAビジコン」とは千葉県内の起業を前提とした内容で、千葉県の活性化や課題解決につながるビジネスプランを広く募集し、優秀なビジネスプランを表彰・支援することで、起業家の育成・支援を目指すものです。サポーター賞は、ちばの起業家を応援する企業・団体が独自の基準で選考して授与する賞です。tokiwaからはサポーター企業として「tokiwa～SDGsサポーター～賞」を授与しました。

社会 - Social 地域貢献

献血への協力



2024年度は計2回実施し、累計28人の従業員が400mL/人の献血に協力しました。

2024年11月 15人
2025年 3月 13人



※採血不可と判断された人数は含んでおりません。

SAKURA Blossom Gardenの設立



佐倉市の市制70周年記念事業として、印旛沼特別支援学校さくら分校の生徒と一緒に佐倉市役所前の花壇を整備し、「SAKURA Blossom Garden」と名を改めました。これから佐倉市役所に訪れる人々の心を癒し、思い出の写真が撮れる新たなフォトスポットとして活用されます。

ペットボトルキャップリサイクル



ペットボトルキャップを回収し、そのリサイクルによって得られる資金を通じて、発展途上国の子供たちにワクチンを届ける取り組みを、2025年3月より行っています。回収ボックスは社内に5か所設置し、社員が気軽に参加できるよう工夫しています。

社員一人ひとりが日常的に環境保全や社会貢献に寄与できる取り組みとして、継続的に実施して参ります。

千葉元気印企業大賞特別賞 副賞寄付



第29回千葉元気印企業大賞で特別賞を受賞した際の賞金を佐倉市、佐倉市社会福祉協議会、佐倉市立南部中学校へ寄付いたしました。佐倉市には子供たちの教育、社会福祉協議会には子供たちの福祉（子ども食堂）へ寄付金を活用いただき、南部中学校にはテントを寄贈しました。

社会 - Social 受賞

第15回日本でいちばん大切にしたい会社大賞 厚生労働大臣賞 受賞



「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞とは、人（従業員とその家族、外注先・仕入先、顧客、地域社会、株主）を幸せにする経営を行っている企業を表彰する顕彰制度です。早くから環境経営に取り組んでいること、教育CSRや佐倉ハーブ園の無料開放等を通じた地域社会貢献に積極的に取り組んでいること、柔軟な働き方の推進、健康経営の取り組み等を評価いただき、受賞へとつながりました。

第29回千葉県優秀企業経営者表彰 知事賞 受賞



「千葉県優秀企業経営者表彰」は、県内中堅・中小企業の振興を目的に、斬新なビジネス手法と優れた経営手腕を発揮された企業経営者を表彰する制度です。ESG経営の取り組みなどを評価いただき、受賞へとつながりました。

代表者（経営企画室室長）による評価と見直し

「植物に感謝し、生かされる会社」となるためには、社内外のステークホルダーが常磐のことを「生かしたい」と思っていただけのような会社でありたいと考えています。

2024年5月にオープンしたsakuraヘルシーテラスとSAKURAスポーツパークは社内外の全てのステークホルダーがwell-beingとなるよう創られた施設であり、上記の思想を体現したものです。日々の従業員の心身の健康を支え、年4回のマルシェには多くの出店と数千人単位での来場をいただくことで地域への貢献に寄与しています。

社外のステークホルダーとして、日本社会、植物化学業界、佐倉、北総エリアといった地域を対象として取り組んでいます。

他方、社内のステークホルダーとして従業員を対象として取り組んでまいりました。具体的な内容は34-35ページに記載の内容を皮切りに上場企業にも見劣りしない制度を導入していると自負しております。健康経営の実績として、2023年から2年連続で健康経営優良法人ブライツ500認定をいただきました。

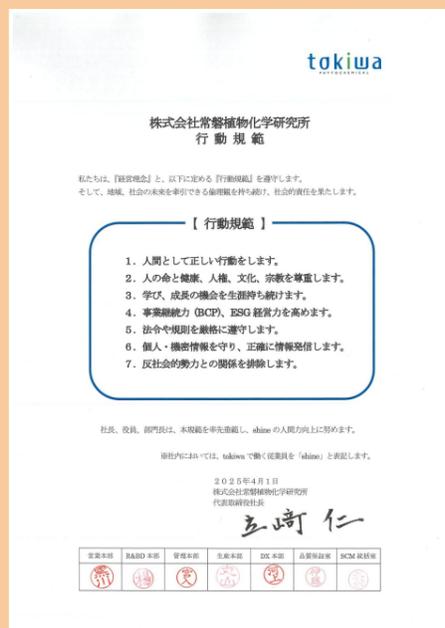
これらの活動は業績を伸ばしながら、健康経営を実行するという両立が非常に重要だと考えています。

ガバナンス – Governance

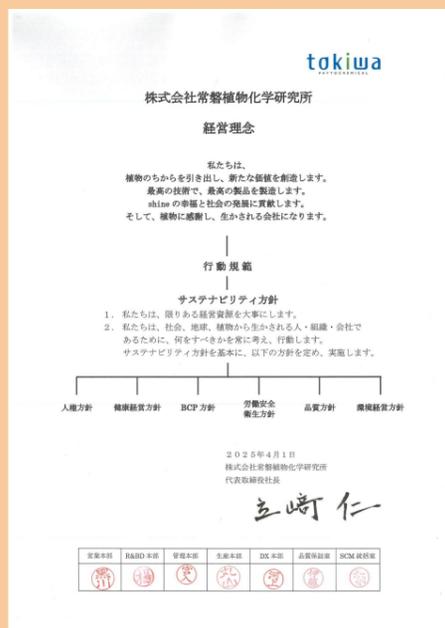
各種方針の策定

常磐植物化学研究所は各種方針を策定し、年度ごとに各部門代表者から押印をもらい、方針に対してコミットメントを行っています。

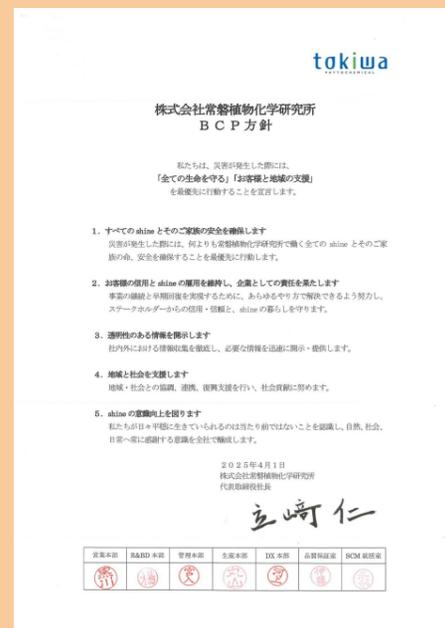
行動規範



サステナビリティ方針



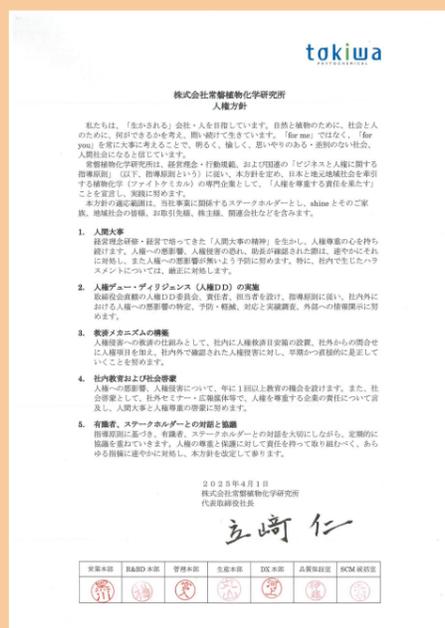
BCP方針



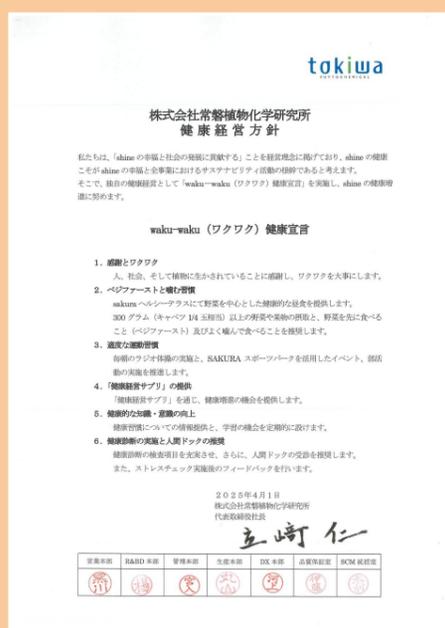
環境経営方針



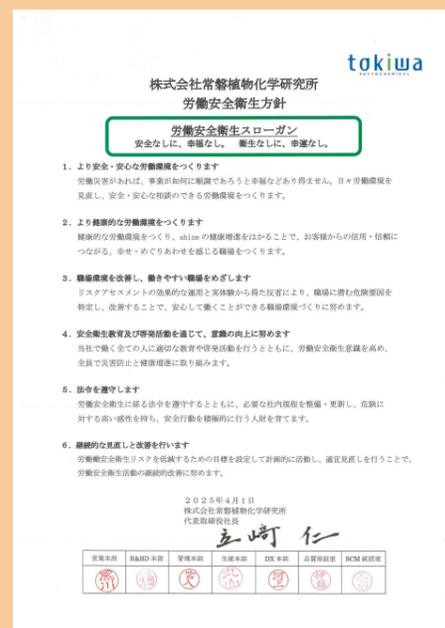
人権方針



健康経営方針



労働安全衛生方針



品質方針



ガバナンス – Governance

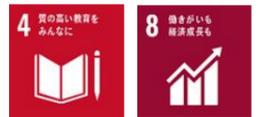
経営理念研修



新入社員を中心に3回にわたる経営理念研修を行いました。毎年、講師として「三方よしビジネスサポート研究所」の古望先生をお招きしています。

本研修はマネジメントの基本から、松下幸之助の仕事に対する様々な考え方を学び、経営理念を軸とした「理念経営」の実践へと活かすことを目的としています。

全社総会



7月19日に第11回全社総会を実施しました。全社員に対し、前年度の経営情報を共有しています。売上実績だけでなく、利益や労働生産性、今後の展望についても共有し、全社員の意識を高めています。

質疑応答の時間を設け、社員から役員へ、様々な質問がされ、その場もしくは後日回答しています。

人権セミナー



9月10日に法政大学の櫻井準教授をお招きして、第2回人権セミナーを行いました。弊社では自社の人権方針の1つに、社内教育および社会啓蒙として年に1回以上、人権に関する教育の機会を設けています。

今回のテーマは「企業に求められる人権尊重の経営」。過去の人権問題や国際的な視点を通じて、企業が取り組むべき方針をご講演いただきました。

「人権」について深く考える貴重な機会となりました。

株主総会



年に1度、株主に対し、前年度の経営情報を報告しています。また株主総会の様子は録画し、全社員が閲覧できるようにしています。

ガバナンス – Governance

環境のガバナンス



2009年からEA21認証を取得しています。
更新審査と中間審査を隔年で受けています。

事業継続力強化計画認定



2021年3月に、“事業継続力強化計画”の認定を受けました。事業継続力強化計画とは、中小企業が策定した防災・減災の事前対策に関する計画を経済産業大臣が認定する制度です。弊社では独自のBCP方針（下記）を策定しており、有事の際には方針に従い行動します。今後も防災・減災対策を促進していき、事業継続力強化に精進して参ります。

コンプライアンスに関する窓口設置



コンプライアンスに反する職場・事業活動に関する窓口を設置しており、社員が匿名で意見を提出できるようになっています。提出された意見は役員会にて協議され、改善が必要な場合は即座に対応する体制を構築しています。

1on1面談、コーチング面談、ナンバー2面談



従業員のキャリアに合わせて、1on1面談、コーチング面談、ナンバー2面談を実施し、従業員ひとりひとりの能力開発、キャリアアップをサポートしています。

ガバナンス – Governance

法令順守・監査対応
(GMP、HACCP、宗教認証など)



弊社工場ならびに製品では下記の認証を取得し、確かな品質の製品づくりにつなげています。

- ・医薬品製造業許可
- ・動物用医薬品製造業許可
- ・食品営業許可証（清涼飲料水製造業）
- ・食品営業許可証（添加物製造業）
- ・食品営業許可証（密封包装食品製造業）
- ・JIHFS健康食品原材料GMP認証
- ・Codex規格HACCP認証
- ・ハラール認証（一部製品にて）
- ・コーシャ認証（一部製品にて）

また、弊社では、海外（米国FDA他）を含め、査察や監査の積極的な受入れを行っています。その中でいただいた貴重なご意見には真摯に向き合い、常に品質水準の向上に努めています。

代表者（経営企画室室長）の評価と見直し

これまでご紹介してきた2024年度までガバナンスに関する施策は、「透明性」の確保と「規範」の確立に関わるものです。「正しくない方法によって生み出されたキャッシュフローは永続的ではなく、評価に値しない」ということを繰り返し発信して参りました。「ガバナンスを重視することが会社を強くする」ということを引き続き社内に浸透させていきたいと考えています。

オーナー企業であっても会社の持続的な発展のためには、コーポレートガバナンスが重要となります。100周年を目指すにあたり、必要な要件として強力なリーダーシップを持つ社長への依存度を引き下げられるような体制の構築が必要と考えました。要点は2点で、経営における意思決定プロセスを明確性と、その体制の持続性の確保です。具体的な打ち手として2025年度にはオーナー一族である立崎家3人と、それ以外の取締役3人という相互監視・牽制が可能な新取締役体制と、サクセッションプランとして取締役・本部長のナンバー2面談制度を実行していくことでゆくゆくは社長の退任時や、社長、取締役・本部長に万が一があったとしても事業継続への影響を最小限に留める体制を構築する土台を作って参ります。

本レポートについてはSSBJへの移行を前提として作成をしています。来期以降SSBJに準拠した形式での作成を目指しています。

ステークホルダーエンゲージメント

●ステークホルダーとの対話状況、ステークホルダーの意見反映

ステークホルダー	関連するマテリアリティ	主なアプローチ
サプライヤー お客様	健康な社会づくり	<ul style="list-style-type: none"> CSアンケート：年1回実施（2024年10月実施） 公式ウェブサイト、メルマガ配信を通じた情報提供 お問い合わせ窓口の設置 顧客との対話（展示会・商談・訪問）
株主	ガバナンスの強化	<ul style="list-style-type: none"> 株主総会：年に1回開催（毎年6月） ESGレポート・公式ウェブサイトを通じた情報提供
行政	法令順守 環境負荷の軽減	<ul style="list-style-type: none"> 千葉県、佐倉市 許認可の取得 補助金申請 顕彰制度へのエントリー
学術団体・研究機関	健康を配慮した素材の開発	<ul style="list-style-type: none"> 共同研究 学会発表 研究会、学会への参加
社会・NPO・NGO	環境負荷の軽減 地域社会への貢献 次世代人財の育成	<ul style="list-style-type: none"> ウェルビーイング施設の一般開放（佐倉ハーブ園、sakuraヘルシーテラス、SAKURAスポーツパーク） 地元行事への参加 社会貢献活動・ボランティア活動 教育CSR 地元スポーツチームのスポンサー活動
社員	働きやすい職場環境づくり 従業員の健康増進	<ul style="list-style-type: none"> ESアンケート：年1回実施（2024年7月実施） 全社朝礼：毎月実施 全社総会：年1回実施 全社研修会：年1回実施 各種社員相談窓口の設置 社員表彰制度（社長賞、年間優秀社員賞） 健康経営 各種研修・セミナーを通じた能力開発機会の提供 1on1面談、コーチングの実施

受賞関係

●日本でいちばん大切にしたい会社大賞 厚生労働大臣賞

「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞とは、人（従業員とその家族、外注先・仕入先、顧客、地域社会、株主）を幸せにする経営を行っている企業を表彰する顕彰制度です。早くから環境経営に取り組んでいること、教育CSRや佐倉ハーブ園の無料開放等を通じた地域社会貢献に積極的に取り組んでいること、柔軟な働き方の推進、健康経営の取り組み等を評価いただき、受賞へとつながりました。



●千葉県優秀企業経営者表彰 知事賞

「千葉県優秀企業経営者表彰」は、県内中堅・中小企業の振興を目的に、斬新なビジネス手法と優れた経営手腕を発揮された企業経営者を表彰する制度です。ESG経営の取り組みなどを評価いただき、受賞へとつながりました。



受賞関係

●エコアクション21オブザイヤー2024 W受賞 レポート部門 銅賞、ソーシャル部門 審査委員長賞



エコアクション21オブザイヤーは、環境経営レポート及び社会課題解決に繋がる取り組みを顕彰する事で、脱炭素の社会を実現し、SDGsの達成に向けた多様な取り組みを国内に広く発信するとともに、環境の取り組みを加速させることを目的として、一般社団法人持続推進機構が行っているアワードです。



●健康経営優良法人2025 ブライト500 3年連続認定

従業員の健康増進等に積極的に取り組み、優良な健康経営を実践している法人として、経済産業省より「健康経営優良法人2025（中小規模法人部門）『ブライト500』」に認定されました。2023年、2024年に続き、3年連続での『ブライト500』認定です。

『ブライト500』は、申請企業のうち上位500社に贈られる称号です。「健康的な昼食の提供」や「運動機会の提供」などといった弊社独自の取り組みを含め、様々な健康経営への取り組みが評価されました。



受賞関係

●日本農芸化学会 農芸化学女性企業研究者賞

弊社社員が、2025年度 農芸化学女性企業研究者賞を受賞しました。

「農芸化学女性企業研究者賞」とは、公益社団法人日本農芸化学会から、企業において優れた研究あるいは商品開発における顕著な成果に貢献した女性正会員に授与される賞です。

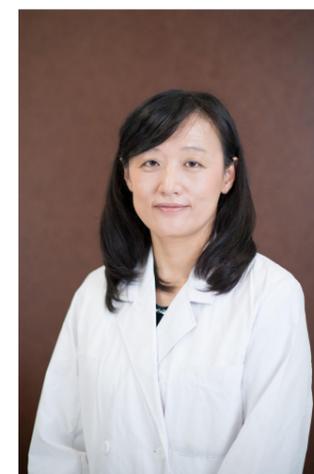
＊受賞者＊

株式会社常磐植物化学研究所

常務執行役員 兼 R&BD本部 本部長 楊金緯

＊講演題目＊

「植物の力で拓く－女性社会、高齢社会に貢献する植物由来機能性原料の研究開発－」



●ラジオ体操優良団体等表彰 千葉県表彰

かんぼ生命様より「ラジオ体操優良団体等表彰」の千葉県表彰を受けました。

「ラジオ体操優良団体等表彰」は昭和31年から実施され、ラジオ体操の普及に大きく貢献した団体や個人を表彰する制度です。全国・地方・府県等の各レベルで表彰が設けられています。

弊社では社員の健康増進や和の醸成を目的に毎朝ラジオ体操を実施したり、ラジオ体操指導者講習会を開催して社員のラジオ体操指導員認定の取得を推進するなどの取り組みを行っています。



受賞関係

● さくらユニバーサルカンパニー表彰

佐倉市主催の「さくらユニバーサルカンパニー」に表彰されました。

「さくらユニバーサルカンパニー」とは、障害者の新規雇用に力を入れている事業所、障害者の働きやすい環境を整えている事業所等、障害者雇用に積極的な市内事業所を表彰するものです。

弊社の誰もが働きやすい職場にするための取組み、ダイバーシティ推進の取組みを評価いただきました。取組みの一例としてはユニバーサルトイレの設置、佐倉ハーブ園内に車いす・ベビーカー用バリアフリー通路の設置などがあります。



● スポーツエールカンパニー+認定

「スポーツエールカンパニー」に認定されました。

スポーツエールカンパニーとは、従業員の健康増進のためにスポーツの実施に向けた積極的な取組を行っている企業に与えられる認定で、スポーツ庁より認定されます。更に弊社は、従業員のスポーツ実施が週1回以上、かつ、70%以上の実施率となる企業に与えられる「+」認定をいただきました。

弊社はラジオ体操を50年以上前から実施し、現在は従業員のラジオ体操指導員認定取得を推奨する取組みを行っています。また2024年に運動場（SAKURAスポーツパーク）を本社に新設し、従業員が運動できる環境を整えたりと、スポーツを通じた健康経営の取組みを推進して参りました。それらの取組みにより、この度スポーツエールカンパニーの認定をいただくことができました。





見てくれて
ありがとうたむ♪

ラフマの妖精 べねたむ

【名前の由来】

リラックスハーブとして知られる「ラフマ」という植物の学名 *Apocynum Vetenum* が由来。

【特徴】

語尾に「たむ」がつく。耳としっぽは葉っぱ、頭にはラフマのお花が咲いている。

【特技】

寝ること、注意力をサポートすること、みんなをリラックスさせること。



べねたむの日常を
Instagramで発信中！